2023年度「高齢者福祉実践・研究大会 in OSAKA」発表者のタイムスケジュール

分科会（B）

No	開始時刻	法人名・学校名	施設名ほか	発表の種別	発表タイトル（予定）
20	10時00分	四天王寺福祉事業団	四天王寺悲田院 養護老人ホーム	①実践発表	水分摂取量が増加すれば認知症高齢者の周辺症状は緩和するのでは！？
21	10時20分	石井記念愛染園	特別養護老人ホーム あいぜん	①実践発表	認知症ケアにおけるご利用者とのコミュニケーション『基本の基！』
22	10時40分	成光苑	高槻けやきの郷	②研究発表	認知症高齢者が主体的に運営する喫茶店における認知症状へのアプローチ
23	11時00分	そうび会	特別養護老人ホーム つるぎ荘	①実践発表	その人の想いを汲み取った支援、当施設における認知症ケアの紹介
24	11時20分	堺福祉会	ハートピア堺	①実践発表	ご利用者の活躍の場「お仕事デイ」
25	11時40分	四天王寺福祉事業団	特別養護老人ホーム 四天王寺紅生園	①実践発表	プライドケアレボリューション
26	12時00分	玉美福祉会	特別養護老人ホーム 向日葵	①実践発表	個別ケアの実践（一人ひとりの暮らしの継続）
27	13時15分	和悦会	加美北特別養護老人ホーム	①実践発表	1年目から生活相談員ができる仕組み～和悦会だからできること～
28	13時35分	五常会	特別養護老人ホーム ゆーとりあ	①実践発表	介護職員のミカタ～無資格・未経験からのスタート～
29	13時55分	こばと会	特別養護老人ホーム いのこの里	①実践発表	コロナ後遺症患者として伝えたいこと
30	14時15分	美木多園	特別養護老人ホーム 美樹の園	①実践発表	もっと部下とコミュニケーションを取ろう！（次を担う職員の育成に対する取組）
31	14時35分	宝生会	ブレス南花田	①実践発表	外国人技能実習生の受け入れ施設の展望と成長、そしてその先へ
32	14時55分	玉美福祉会	特別養護老人ホーム 八戸ノ里向日葵	①実践発表	外国人職員の育成に関して
33	15時30分	秀幸福祉会	特別養護老人ホーム 庄栄エルダーセンター	①実践発表	特別養護老人ホームにおける新たな学習モデル～介護職と看護職の協働による教育動画の開発～
34	15時50分	成光苑	せっつ 桜苑	②研究発表	気付きシートを開設　～みんなの気付く力を向上させたい！～
35	16時10分	大阪府社会福祉事業団	特別養護老人ホーム 高槻荘	①実践発表	LIFEデータを利活用したケアの展開～認知症ケア×役割＝自立支援のアップデート～
36	16時30分	あゆみ会	アンパス東大阪	①実践発表	『誰もが』使いやすい、見やすい、マニュアルに向けての取り組み
37	16時50分	大阪府社会福祉事業団	特別養護老人ホーム 白島荘	①実践発表	眠りスキャンで睡眠を科学！私らしく暮らす24Hシートへブラッシュアップ！
38	17時10分	悠人会	特別養護老人ホーム ベルファミリア	②研究発表	介護現場での介護機器の活用
39	17時30分	堺福祉会	ハートピア堺	①実践発表	衣替えから考える「生産性向上」

※進行次第では、開始時刻が変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

水分補給により認知症状は改善するのか！？

四天王寺悲田院養護老人ホーム

発表：竹内一真

ＰＣ：藤岡祥太郎

施設概要

一般養護

ご利用者は比較的
自立されている

外部サービス利用型特定施設入居者生活介護

要介護認定を受けられ、
介護保険サービスを
利用できるご利用者
が入居

テーマの選定

- 個々のサービス・認知症ケアの不足
  ⇒職員の知識不足が顕著
- 尿路感染症による入院者の増加

- ⇒**水分補給**に焦点を当てる

テーマの選定

- 水分不足　⇒尿路感染リスク↗

- 水分が足りていれば、覚醒水準↗

- 周辺症状↘　尿路感染↘

課題による取り組み内容

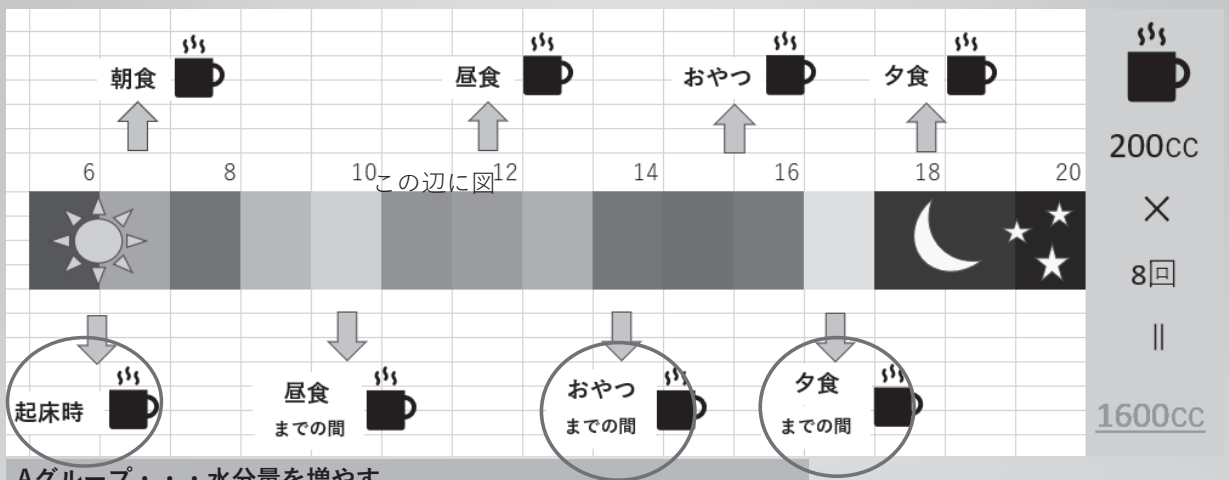
- **水分補給の取り組み**
- いつも提供している時間は、

朝食（7：30）　10時　　昼食（11：30）
おやつ（15：00）　夕食（17：30）

1日5回提供、1回×200cc提供

平均摂取量は、約 **700cc**

水分提供スケジュール



Aグループ・・・水分量を増やす
Bグループ・・・従来通り
各2名ずつ選定し経過を観察する
長谷川式スケール認知テストを用いて点数の推移を比較する。

課題による取り組み内容

- コミュニケーションの取り組み
- じっくり話す機会がない。
- 業務以外の会話が少ないことが現状。そこで、
- ⇒1日1回業務の合間に10分間、コミュニケーションをとる時間を設けた。
- 内容と表情を記録した。

水分補給による効果の検証

- Aの事例…他者の言動に対しての不穏が多くある方。
- 実施前　1日の水分摂取量　900cc以下
- 取り組み後　9月～11月　平均1400cc　⇒**上昇した**
- 不穏になられる頻度は、減少傾向となった。
- 実施前の8月＝5回
- 取り組み後の9月＝3回、10月＝1回、11月＝1回　⇒**減少した**
- 12月＝コロナ感染により未実施。

水分補給による効果の検証

- Bの事例…繰り返し訴えが頻回にみられる方
- 「年金はいつもらえるのか、朝ごはんはどこでいいのか」等
- 実施前　1日の水分摂取量　900cc以下
- 取り組み後　9月～12月　平均1300cc　⇒**上昇した**
- ⇒継続するにつれ、徐々に訴えの緩和がみられました。
- コールが頻回であった日をカウントし記録。9月が8回、
- 10月が6回、11月が3回、12月はコロナ感染にて未実施　⇒**減少した**

長谷川式スケール認知テスト	8月23日	10月7日	11月8日	12月日	1月13日
	5点（やや高度）	4点（非常に高度）	8点（やや高度）		8点（やや高度）

コミュニケーションによる効果の検証

- Cの事例…帰宅願望による焦燥が多く見られる方
- ご自身の生活歴や職業のお話等、毎日傾聴を続けた結果、
  ⇒徐々に帰宅願望が落ち着き、不穏も減少傾向に。
- 一方、取り組みがなくなった短期間は、帰宅願望が
  再発した。

長谷川式スケール認知テスト	8月28日	10月7日	11月4日	12月5日
	3点（非常に高度）	3点（非常に高度）	4点（非常に高度）	3点（非常に高度）

波及効果

- Aさんの事例…便秘が4日～5日間続くことが多い方

浣腸が月1、2回必要であった

⇒水分摂取量が増加し、**浣腸が必要なくなった**

- Dさんの事例…一度に水分を数口しか摂取されない方。

居室にストローマグを設置、好きな飲料で摂取量が増加。

⇒嗜好飲料の調査は、他ご利用者へも波及し

メニューが増えた。

波及効果

- 尿路感染状況

9月～12月にかけ毎月尿検査を実施

結果、明確な改善はみられず

- 尿路感染による入院者、実施前後の比較

令和5年4月～8月の5か月間での入院は**7名**

令和5年9月～1月にかけて**3名**と**減少した**

アンケート　質問①

水分補給増加によりご利用者への変化は見られたか？

・変わった　51％

・変わらなかった　39％

・未実施　10％

アンケート　質問②

コミュニケーションの機会が増えご利用者変化はあったか？

・変わった　77％

・変わらなかった　13％

・未回答　10％

アンケート　質問③

取り組みによって職員間の意識に変化はあったか？

・変わった　52％

・変わらなかった　35％

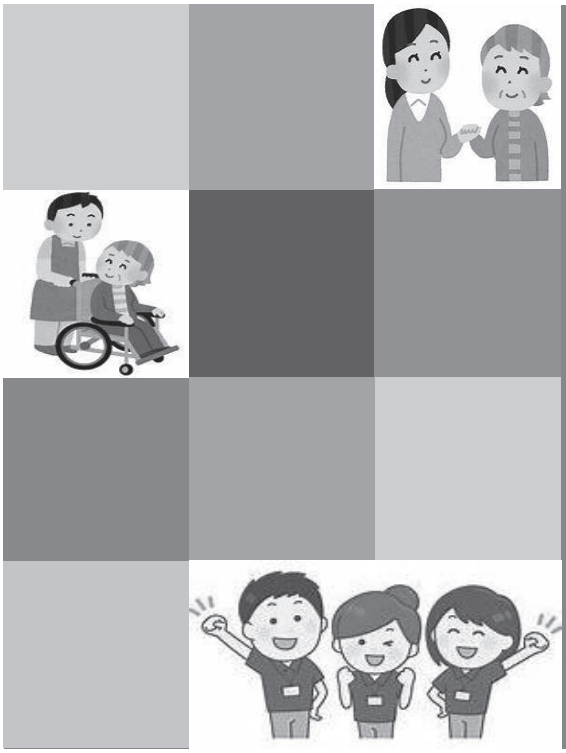
・未回答　13％

まとめ

- 周辺症状に一定の変化が見られた
- 認知症スケールの点数は一部上昇
- 水分摂取量は総じて上昇、維持できている
- 約8割の職員がコミュニケーションの重要性を認識している

⇒**不安な気持ちに寄り添うことが、周辺症状の緩和に繋がるということを強く実感しました**

ご清聴ありがとうございました



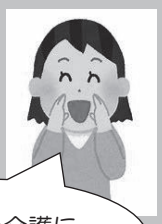
高齢者福祉実践・研究大会　ｉｎ　OSAKA

認知症ケアにおける ご利用者との コミュニケーション 『基本の基！』

特別養護老人ホーム　あいぜん　　久保　直樹

２０２４年２月１３日（火）

★はじめに　自己紹介★



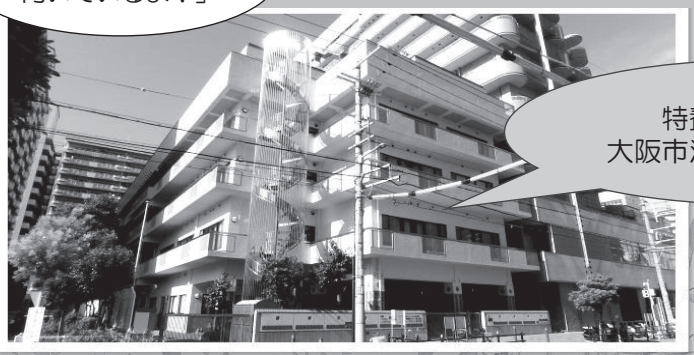
「あなた介護に
向いているよ！」

そうかなぁ…
本当かなぁ…

働き始めて

気が付けば
１０年

介護って…
たぁ～んのしぃ～★



特養　あいぜん
大阪市浪速区にあります

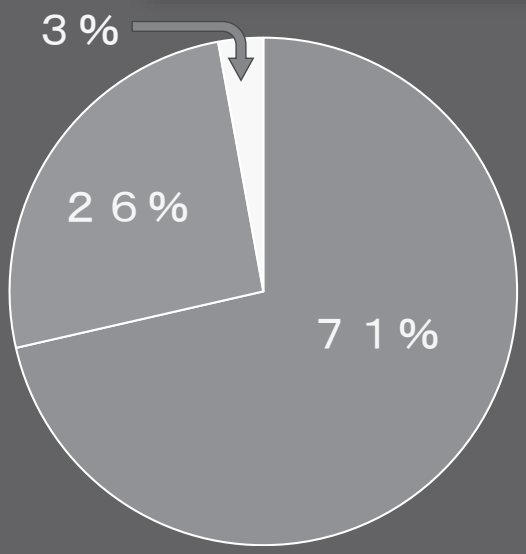
特養

多様な職種・年齢・経験も
様々な人が協力し合い
チームで働いている

ご利用者が安心して
生活するために
チームがすべきこと

ケアの統一

認知症状の見られる利用者の割合

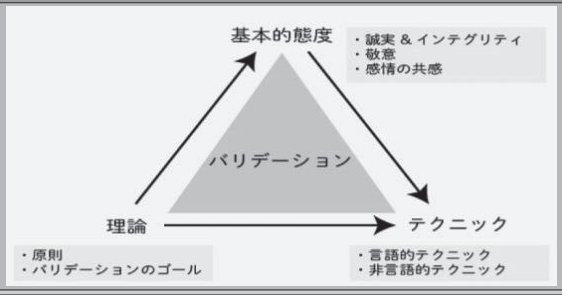


- □認知症と診断されている利用者
- □診断は不確定だが認知症状が見られる利用者(MCI含む)
- ■認知症状なし

（特養あいぜん　令和６年１月現在）

認知症ケアにおけるコミュニケーション技法

バリデーション（１９６３年）



ユマニチュード（１９７９年）

どちらも
『ありのままの相手を受け入れてその人らしさを尊重する』
考え方に基づいている

＝

相手を大切に思う
気持ちを伝える技術

バリデーション１４の技法

１．センタリング
２．利用者にとっての真実に基づいた言葉を使う
３．リフレージング
４．極端な表現を使う
５．反対の事を想像させる
６．レミニング
７．アイコンタクト
８．曖昧な表現を使う
９．はっきりと、低く優しい声で話す
１０．ミラーリング
１１．満たされていない人間的欲求と行動を結びつける
１２．好きな感覚を用いる
１３．タッチング
１４．音楽を用いる

ユマニチュードの４つの柱

『認知症』だから、忘れるから
特殊なコミュニケーション技法
を覚えてどんどん使って行かな
ければ…？

その為に色々勉強はしているけど…
実際のケアにちゃんと生かせている
のかな…？

今回のテーマ　視覚的イメージ図

認知症ケアにおけるご利用者とのコミュニケーション
『基本の基！』

認知症ケアにおけるご利用者（＝大切な人）
とのコミュニケーション『基本の基！』

★事例利用者紹介★

大正１２年生まれ（１０１歳！）女性

平成２４年頃から物忘れあり
→アルツハイマー型認知症と診断

平成３０年からショートステイ利用を経て令和１年に入所

短期記憶が困難
日々「もう退院する」
「嫁さん呼んで」
「（入院費は）なんぼいんの？」
と繰り返される

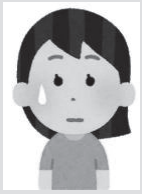
不安が募り「もう死にたい」と泣き出されたり、ご家族が面会に来られた際に「連れて帰って！」と泣いて縋られる事も…

ご本人からの様々な不安の訴えに対し職員は個々でバラバラな対応をしていた

ケアの統一前→職員が個々に返答

嫁さん呼んで！

嫁さんは仕事中ですよ。退院はお医者さんに聞いてみましょう。

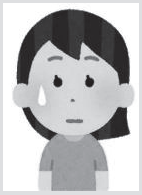


もう退院する！

ここは病院じゃないですよ。嫁さんには後で電話します。お金はかかりません。

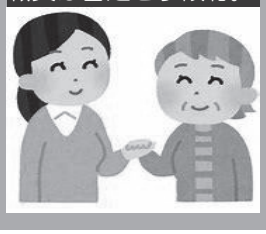
お金なんぼいんの？

お金はお嫁さんが払ってましたよ。明日退院しましょう。

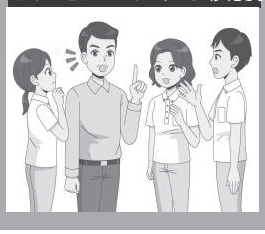


どのようなケアによって不安感が軽減するのか
安心に繋がるのか
↓
段階的に検討・実践していく

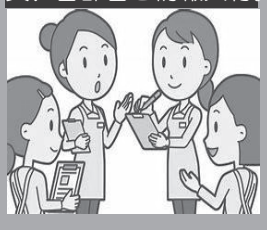
ステップ１
ご利用者の発言から心情をアセスメント。職員は否定せず傾聴。



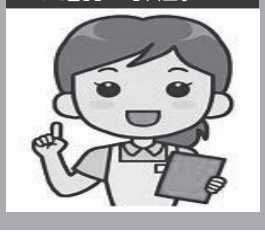
ステップ２
言葉以外での留意事項や統一すべき事がないかアセスメントし検討。



ステップ３
統一する声掛けや生活環境整備等を決め全職員、各部署と情報共有。



ステップ４
実践後、実際に不安感の軽減に繋がっているのか確認・評価。



ステップ1
発言から心情をアセスメント
職員は否定せずに傾聴

ステップ2
言葉以外での留意事項や統一すべき事がないかアセスメントし検討。

年のわりに元気過ぎるくらいですね。色々、用事もしたいみたいです。

趣味はなかったけど掃除は好きって言ってました。裁縫も得意です。

車椅子のブレーキを忘れて立ち上がって転倒されました。棚の上のものを取ろうと椅子の上に立ったり危険な動きがあるので見守りが必要です。

寂しそうな時にお菓子や果物をお渡ししたらとても喜ばれました。

退院したいのはここにいるのが退屈だからじゃないだろうか。

机拭きや洗濯物畳みを快く手伝って下さいます。

息子さん夫婦は忙しいのに自分が迷惑を掛けていて申し訳ないと泣かれる事がありました。

難聴で聞こえていなくても返事をされている事もあります。

ステップ3
統一する声掛けや生活環境整備等を決め、全職員・各部署と情報共有。

声掛けを統一しましょう。介護職員だけではなく、医務や栄養、リハビリ担当等、本人に関わる他部署の職員も統一をお願いします。面会されるご家族にも共通の返答をお願いしましょう。

退屈な思い、寂しい思いをしない様に、在宅時からお好きだった掃除や洗濯物畳みといった役割を担って頂き、お礼を伝えていきましょう。

食べて喜ばれていたものをご家族に伝えて差し入れして頂きましょう。

自由に過ごして頂きたいが転倒事故が心配。自動ブレーキ機能がついた車椅子を使って頂きましょう。居室内でも引き出しや戸棚を安全に使える様にベッドやポータブルトイレの位置を変更しましょう。

よくお金の心配をされている。声掛けだけではなく見ても安心出来る様に『入院代もお食事代もタダ』とポスターを貼っておきましょう。

そして実践！
声掛けや態度を統一・環境を整備

そして実践！
声掛けや態度を統一・環境を整備

ステップ４
実践後、実際に不安感の軽減に繋がっているのか確認・評価。

・ケース記録を基に精神面の様子をチェックする
・ご家族へ面会時のご様子について伺う
・職員間での意見交換を行う

【良かった点】

・何度も尋ねられる事自体は変わらないが、声掛けを統一してからご本人も記憶され「いつ退院？明日？」「嫁さん何時に迎えに来る？４時？」とおっしゃる様になった。職員が「そうです。合っていますよ。」と返答すると、安堵の表情をされる様になった。
・掃除や洗濯物干しをされる際「あ～忙し。うちがせんかったら他の人おってもほったらかしやで。」とおっしゃりながら取り組まれている。
→退屈な気持ちが紛れ、居場所や役割として認識されている様子が伺えた。
・「明日までここにおってもええ？」「今はここにおらして。月末に退院するわな。」「えらい長い事世話なってありがとう。」「死のう思たかて、ここのご飯美味しいから食べてしもて長生きしてまうねん。」といった発言がある。
→不安な気持ちから少しずつポジティブなニュアンスの発言が増えた。
・『不穏への対応』に苦手意識を持ち困っていた職員も、適切な声掛け対応が出来る様になった事が自信に繋がった。
・ご家族の面会時にも泣いて縋られる様な場面が減った。

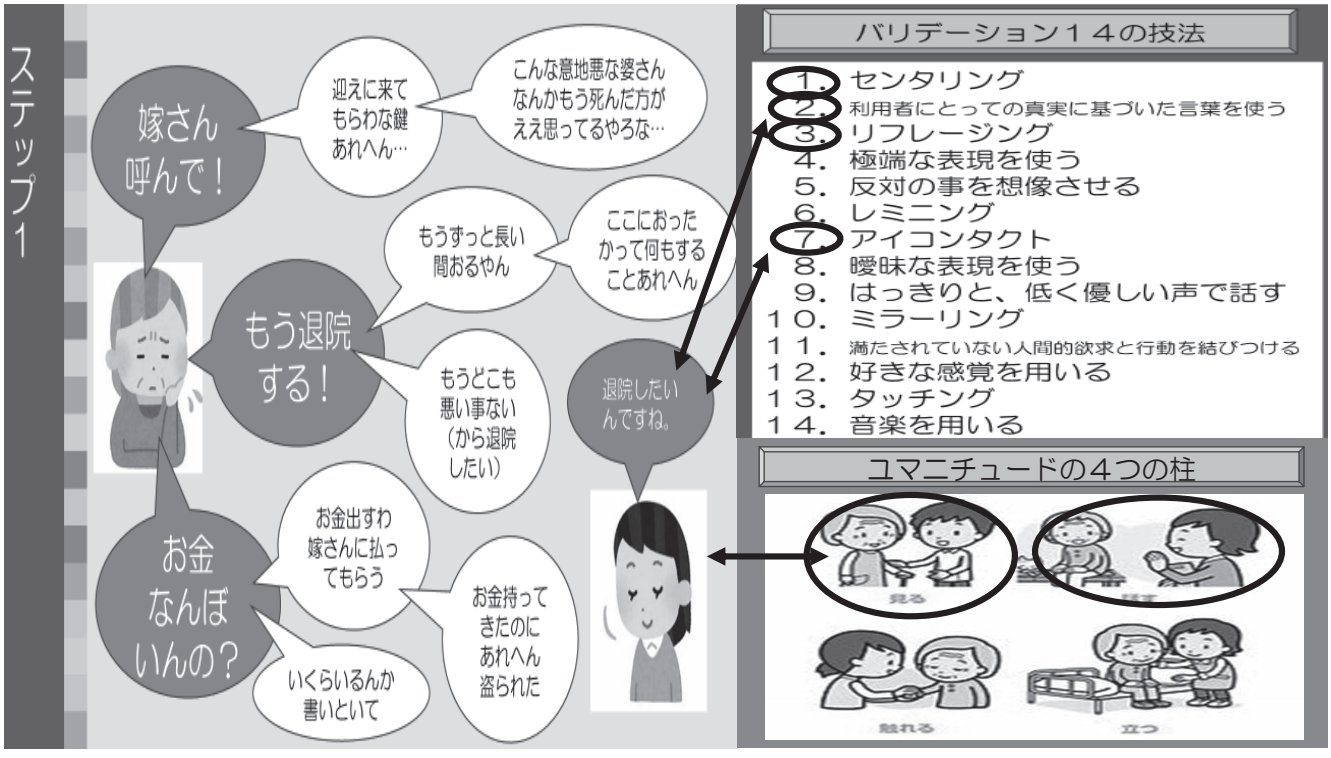
【改善していく点】

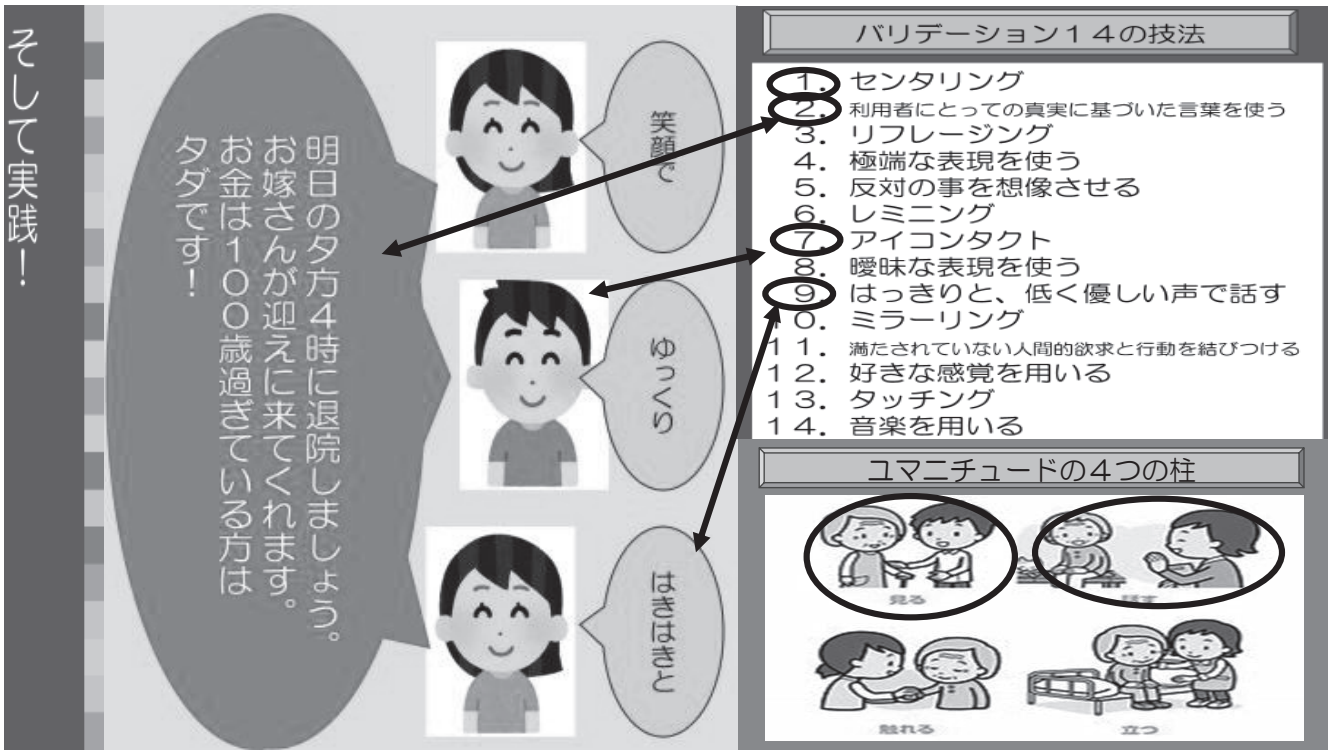
・統一した内容で「ただ同じ対応を続ければ良い。」と間違った認識をしたり惰性で対応しない様に、自身のケアやケアチーム職員間で定期的に見直し、検討を続けていく。

『認知症』だから、忘れるから
特殊なコミュニケーション技法
を覚えてどんどん使って行かな
ければ…？

その為に色々勉強はしているけど…
実際のケアにちゃんと生かせている
のかな…？

皆さんも
お解りいただけた
だろうか…





気づかんうちに
どんどん技法
使ってるやん！

【まとめ】

<u>コミュニケーション技法は</u>
<u>難しく捉えなくて良い</u>

明文化された技法を
単なる手段と捉えるのではなく

『なぜ使うのか』『どのように使うのか』

その意図まで体系的に学んだ上で
目の前にいる人を

『大切に』
『思いやりを持って』

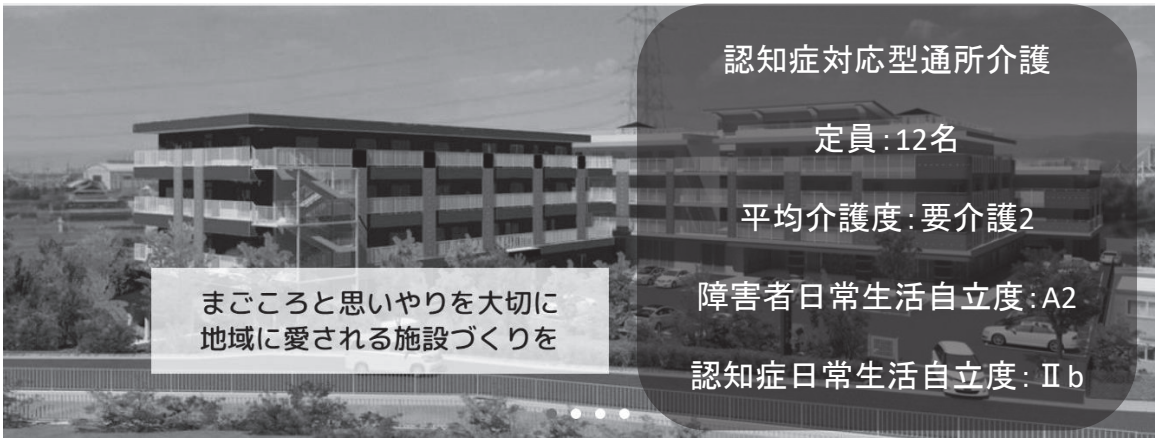
接する事で自然と身についていく！

ご清聴ありがとうございました

ご利用者が主体的に運営する喫茶店における認知症状へのアプローチ

社会福祉法人　成光苑
高槻けやきの郷
認知症対応型通所介護
阪口　卓実

社会福祉法人　成光苑　高槻けやきの郷



取り組みのきっかけ

活動の選択肢の一つとして取り組んでいた、
おやつ作りを行う中で、一人のご利用者の

「これだったらお金をもらえるかもね」

といった会話から・・・

仮説

ご利用者が**主体的**に喫茶店を
運営することで、**意欲・QOLの向上・BPSDの**
軽減につながるのではないか

方法

1. **喫茶店運営方法の検討**
2. **有償ボランティアとして活動するための準備**
3. **ご利用者主体で行うための必要な工夫の検討と共有**
4. **対象者の選出・評価の実施**

（vitality index・short-QOL・NPI-Q）

1. 喫茶店運営方法の検討

地域交流スペースのキッチンの構造上、
喫茶の営業許可が下りない

高槻認知症家族の会ハナミズキに協力を依頼

毎月第4木曜日にけやきの郷地域交流スペース

家族の会と施設関係者の**限定的な方**に対し、**喫茶を有料で提供する**

2. 有償ボランティアとして活動するための準備

介護保険最新情報vol.669厚生労働省事務連絡を基に準備

- **介護計画書の作成**
- **同意書の作成**

高槻市福祉指導課へ有償ボランティア実施についての確認

第一声は**「デイらしくない活動なので。。。」**といった反応

介護保険最新情報vol.669とは

介護サービス利用者が**地域住民と交流したり、**
有償ボランティアなどの社会参加活動に参加などを
実施する場合の留意点等をまとめているもの

実際の介護計画書と同意書

高根けやきの郷　通所介護事業所

【サービス内容と留意点】

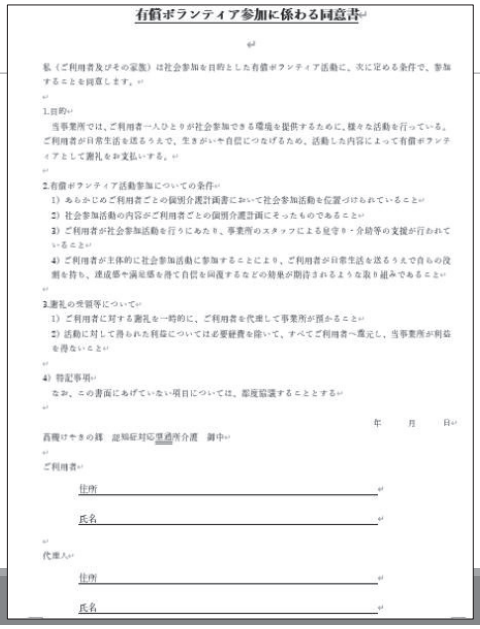
項目	ケア内容	留意点
送迎	送迎あり。	到着、５分前にご自宅に電話入れる。
健康管理	血圧・体温・脈拍の測定と体調確認。	
入浴	あり	
食事	普通食。食事の際には見守りを行います。	
排泄	トイレの流し方がわからなくなることがあるため、適時お声掛けしていきます。 トイレへ行こうとされることがご自宅では少なくなったとのことで、今後こちらでも2~3 時間に一度はトイレのお声掛けをしてまいります。	
個別機能訓練	機能訓練指導員のもと、留意が日常生活動作訓練を中心としたリハビリの実施。 次回の評価は3か月後となります。 ・数字探し・早口言葉・長文の音読・脳トレプリントなど。 集中して声に出して、数字を探すなど日常生活には欠かせない、注意力・集中力を鍛えていきます。 目を早く動かすことで、視野を広げていきます。 計算ドリルや漢字の書き取りに加え間違い探し等、脳トレプリントの実施。 ・単発的なレクを災出取り入れることで、飽きることなく参加する機会を設けます。 外出：季節ごとの外出行事に参加。 外気に触れ季節を感じることで、日常の生活の中での活性化につなげるとともに機能訓練をおこなって行きます。 社会参加活動：ご利用者が日常生活を送るうえで役割を持ち、達成感や満足感を得ることで自信を持つことができる環境を提供します。	認知症の進行を防でプログラムを１日の中で何回にも分けて取り入れています。
余暇活動	他者と交流をする機会をもうける。 認知症予防プログラムを実施する。	ご自分のペースに合わせてあげる必要性あり。 ゆったりと会話等を楽しみたい様子。
投薬管理	現在お薬の服用はなし。	また今後新たに処方された場合は、ご家族の指示に従い、服用して頂きます。
移動動作	自立	
着床	なし	

年　月　日

上記の介護予防・通所介護計画書について説明を受け、内容を確認の上、同意しましたので受領します。

説明者　生活相談員

利用者又は代理人氏名



有償ボランティア参加に係わる同意書

私（ご利用者及びその家族）は社会参加を目的とした有償ボランティア活動に、次に定める条件で、参加することを同意します。

1.目的

当事業所では、ご利用者一人ひとりが社会参加できる環境を提供するために、様々な活動を行っている。ご利用者が日常生活を送るうえで、生きがいや自信につなげるため、活動した内容によって有償ボランティアとして謝礼をお支払いする。

2.有償ボランティア活動参加についての条件

1）あらかじめご利用者ごとの個別介護計画書において社会参加活動を位置づけられていること

2）社会参加活動の内容がご利用者ごとの個別介護計画にそったものであること

3）ご利用者が社会参加活動を行うにあたり、事業所のスタッフによる見守り・介助等の支援が行われていること

4）ご利用者が主体的に社会参加活動に参加することにより、ご利用者が日常生活を送るうえで自らの役割を持ち、達成感や満足感を得て自信を回復するなどの効果が期待されるような取り組みであること

3.謝礼の受領等について

1）ご利用者に対する謝礼を一時的に、ご利用者を代理して事業所が預かること

2）活動に対して得られた利益については必要経費を除いて、すべてご利用者へ還元し、当事業所が利益を得ないこと

4）特記事項

なお、この書面にあげていない項目については、都度協議することとする

年　月　日

高根けやきの郷　認知症対応型通所介護　御中

ご利用者

住所

氏名

代理人

住所

氏名

実際の介護計画書と同意書

・有償ボランティア活動参加についての条件

1）あらかじめご利用者ごとの個別介護計画書において社会参加活動を位置づけられていること

2）社会参加活動の内容がご利用者ごとの個別介護計画にそったものであること

3）ご利用者が社会参加活動を行うにあたり、事業所のスタッフによる見守り・介助等の支援が行われていること

4）ご利用者が主体的に社会参加活動に参加することにより、ご利用者が日常生活を送るうえで自らの役割を持ち、達成感や満足感を得て自信を回復するなどの効果が期待されるような取り組みであること

・謝礼の受領等について

1）ご利用者に対する謝礼を一時的に、ご利用者を代理して事業所が預かること

2）活動に対して得られた利益については必要経費を除いて、すべてご利用者へ還元し、当事業所が利益を得ないこと

3. ご利用者主体で行うための必要な工夫の検討と共有

⇒ご利用者ができることをスタッフが理解し
必要なアシストの確認

⇒喫茶店ならどうかという視点でご利用者を
どうアシストするかを考える

⇒準備というプロセスを活動にする

11月売上	単価	個数	計
ケーキセット	¥500	12	¥6,000
ケーキのみ	¥300	11	¥3,300
ドリンクのみ	¥200	5	¥1,000
		合計	¥10,300

お客様内訳				
家族の会	サ高住	スタッフ	5階ご家族	5階ご利用者
9人	2人	2人	4人	11人

有償ボランティア参加者（延べ人数）	
製菓担当者	6人
接客担当	4人
会計担当	1人

売り上げ￥10,300-次回予算＝
￥7700÷11名＝**謝礼￥700**

4.評価の実施

NPI-Q　　Vitarity Index　　short QOL-D

評価は喫茶運営のある週の
通常時・レクリエーション時（ゲーム系）・喫茶運営時に評価
評価者はすべて同一評価者

種類	内容
Vitality Index	日常生活での行動を起床・意志疎通・食事・排泄・活動の5項目で評価 **高齢者のリハビリテーションや介護場面での意欲を客観的に測定する** 各項目はそれぞれ0～2点まで配点された3つの選択肢からなり、満点は10点となる。
short QOL-D	領域もしくは項目ごとにポジティブ・ネガティブな側面からQOLの評価が行われていることが特徴 **認知症者専用で、客観的にQOL評価ができる** 各項目を4 段階（見られない、まれに見られる、ときどき見られる、よく見られる、該当せず）で評価する
NPI-Q	**認知症者のBPSDの頻度、重症度、介護者の負担度を数量化できる評価方法** 「妄想」「幻覚」「興奮」「うつ」「不安」「多幸」「無関心」「脱抑制」「易怒性」「異常行動」の 計10項目からなっている 妥当性と信頼性が確認されており、認知症者の精神症状、介護者負担度の評価に有用。 高得点なほど重症度、負担度が大きいことを示す

4.対象者を4名選出

倫理的配慮

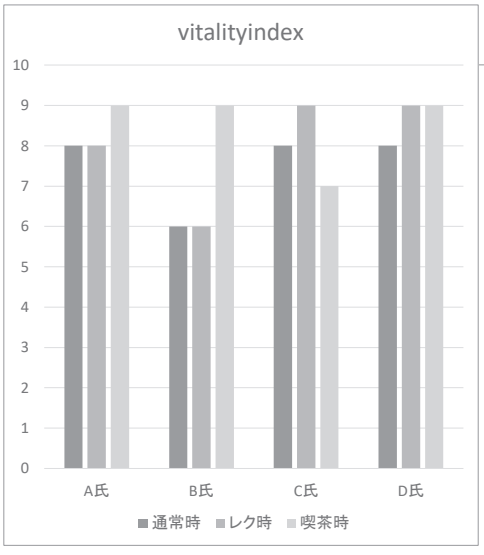
本研究発表を行うにあたり、研究対象者には研究の目的と調査結果の内容を資料にすること、本研究以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、同意書にて確認し、回答を持って同意したこととした。

対象者

	年齢	障害高齢者の日常生活自立度	認知症高齢者の日常生活自立度	要介護度	原因疾患	BPSD	取り組み内容	経歴
A氏	80歳代後半	J2	Ⅱb	介護1	鑑別診断なし	拒否（入浴）	製菓・接客	接客業（販売員）
B氏	70歳代後半	A1	Ⅱb	介護3	レビー正体	無気力	製菓・接客	接客業（理容師）
C氏	80歳代前半	A1	Ⅱb	介護1	鑑別診断なし	盗食	製菓・接客	接客業（販売員）
D氏	70歳代後半	A1	Ⅱb	介護1	アルツハイマー	無気力	製菓 金銭管理	事務職

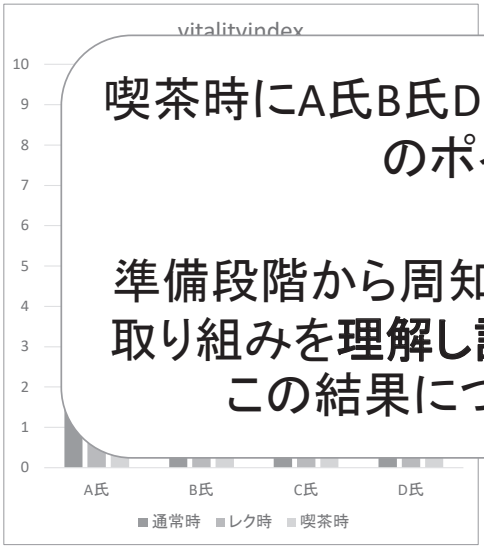
結果と考察

Vitality indexの結果と考察



A氏B氏については通常時・レク時より喫茶時の値が良くなっている。C氏はレク時が一番値が高く、喫茶時が一番低い値となっている。D氏はレク時・喫茶時の値が同様で通常時の値が低い。
A氏：他の項目より喫茶時が活動を求めるという項目で1P増えている。
B氏：他の項目より喫茶時が意思疎通（自分から話しかける）・リハビリ（活動を求めている）の項目で1～2P上昇している
C氏：他の項目は変化がなかったが活動を求めるの項目で喫茶時よりレク時2P上がっている。
D氏：通常時より、活動を求めるという項目で1P増えている

Vitality indexの結果と考察



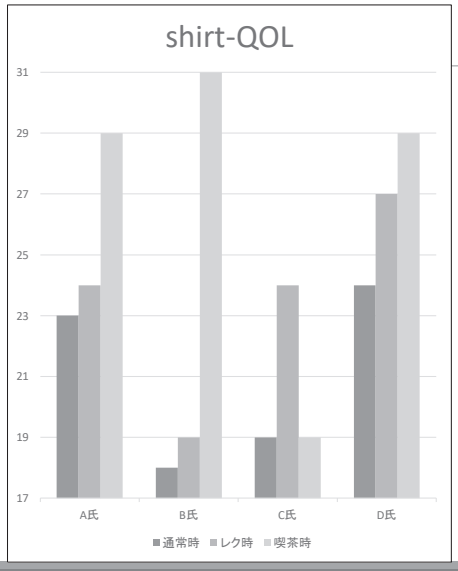
喫茶時にA氏B氏D氏どの方も「活動を求める」の項目のポイントが上がっている

⇓

準備段階から周知し活動し続けることで、喫茶という取り組みを理解し記憶することが出来ていたことが、この結果につながっていると考えられる。

A氏B氏については通常時・レク時より喫茶時の
るの項目で喫茶時よりレク時2P上がっている。
D氏：通常時より、活動を求めるという項目で1P増えている

Short-QOLの結果と考察



A氏B氏D氏ともに喫茶時のQOLが一番高い。C氏はレク時が一番高い値であった。

A氏：喫茶時が他の活動に比べ、楽しそうである・周りの人が活動しているのを見て楽しんでいる・自分から話しかけるの項目が像がしている。

B氏：喫茶時が他の活動に比べ、楽しそうであるが通常時より3P、訪問者に対し嬉しそうであるで他の活動時より1P、周りの人が活動しているのを観て楽しんでいるの項目で他の項目より2P、自分から話しかける3P、怒りっぽいん項目で2P向上している。

C氏：レク時が他の活動に比べ楽しそうであるの項目で他の項目より2P上がり、怒りっぽいの項目で2P上がっている。

D氏：楽しそうであるという項目において通常時に比べレク時・喫茶時は1P増加している。また、自分から人に話しかけるという項目についても同様に1P増加している。

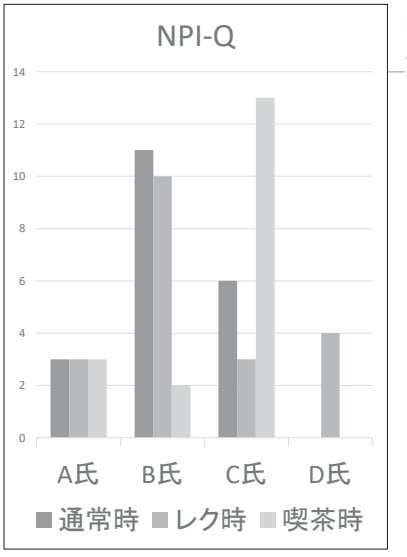
Short-QOLの結果と考察

喫茶時においてA氏B氏D氏に共通して言えることは、
「自分から話しかける」の項目の数値が上がっている事である。
⇓
自分の得意分野を中心に喫茶店運営に関わることで、
自信をもって参加し、ご自身からはなしかけることが出来たことで
QOLが向上したことの一因ではないかと考えられる。

C氏についても接客業をしていた経験があるが、これまでの人生の中で接客していたことがC氏の中で多くを占めていないのではないかということ。

そして、退職後の趣味活動に意欲的に取り組まれ、身体を動かすことや絵画などを取り組まれていたためレク時のQOL向上がみられたのだと考える。

NPI-Qの結果と考察



B氏は喫茶時においては大幅にBPSDが改善されている。一方でC氏はレク実施時が一番値が高く、喫茶時が一番値が低くレク時が一番高い値となっている。

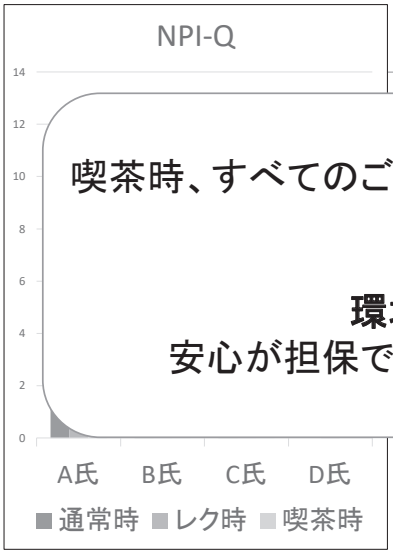
A氏：変化なし

B氏：喫茶時が他の項目に比べ、介助を拒んだり、扱いにくくなるときがありますか2⇒0自分の日常生活や、他人の活動や計画に関心がなくなってきているように見受けられますか。3⇒1良くなっている。一方であなたがいなくなると落ち着かなくなりますか。の項目では0⇒1悪くなっている

C氏：喫茶時、他の活動に比べ、悲しそうであったり、落ち込んでいるように見えたり、そのように言ったりしますか。2⇒0とよくなっている。一方であなたがいなくなると落ち着かなくなりますか。0⇒1と悪くなっている。

D氏：レク時、ご科の活動に比べ介助を拒むという項目で1P他者の活動に関心がなくなるで1P増えている

NPI-Qの結果と考察



B氏は喫茶時においては大幅にBPSDが改善されている。一方でC氏はレク実施時が一番値が高く、喫茶時が一番値が低くレク時が一番高い値となっている。

喫茶時、すべてのご利用者の**「あなたがいなくなると落ち着かなくなる」**の項目でポイントを下げている

⇓

環境の変化や雰囲気の違いが影響し
安心が担保できない環境であったのではないかと考えられる

D氏：レク時、ご科の活動に比べ介助を拒むという項目で1P他者の活動に関心がなくなるで1P増えている

まとめ

有償ボランティアとして、ご利用者が主体的に喫茶店をおこなった結果

QOL・意欲の向上
BPSDの軽減

の一因となっているといった一定の成果が得られた

喫茶運営に参加した人としなかった人の**「差」**

サービスを提供する上で公平と平等を考える

今後について

- ご利用者の社会参加活動として継続し運営する
- 地域の方やご家族へアプローチする場にする
- 有償ボランティアの可能性

参考資料

若年性認知症の方を中心とした介護サービス 事業所における地域での社会参加活動の実施について（介護保険最新情報vol.669 ）
http://hssk.gr.jp/wp/wpcontent/uploads/2018/07/vol669.pdf

ご清聴ありがとうございました

その人の想いをくみ取った支援、当施設における認知症ケアの紹介

令和６年２月１３日
特別養護老人ホーム　つるぎ荘

介護福祉士　吉田　将人

社会福祉法人そうび会
特別養護老人ホームつるぎ荘＜施設紹介＞

- 入所者　　（84名）
- ショートステイ（16名）

施設　特徴

○従来型の特養であり、また各フロアの廊下がぐるりと
１周する事のできる回廊になっている。

廊下

個室

多床室

認知症ケアの取り組みのきっかけ

- 安全第一ではあるが、安全確保優先の対応では、利用者様の気持ちがないがしろになってしまっているのではないか、と疑問を感じた。

取り組み方法

- 介護士が個人で考えるのではなく、介護士、看護師、言語聴覚士、理学療法士、管理栄養士、と多職種でカンファレンスを行い、対応を検討した。
- 対応の検討に関しては、安全を確保した上で、行動の奥にある気持ちに着目した。

事例１　　Ａさんの場合

・８０歳代　女性　要介護度4　　認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲｂ

・車椅子介助

・1人では歩行困難

行動　車椅子から立ち上がり、歩こうとされる

その行動の
奥にある想いとは

- 夫を探したい
- 買い物に行きたい
- トイレに行きたい
- 立ちたい

対応　歩行器で歩いて頂いた

どうなった？

- 笑顔で歩かれた
- 歩かれた後は落ち着いて座られる事が増えた

行動

入浴時、特に脱衣時の拒否がある

その行動の奥にある気持は・・

・1人でお風呂に行きたくない
・服を脱ぐ理由が分からない

対応

- フロアスタッフとなじみの利用者様とで一緒にお風呂のお話をしながら誘導を行った。
- 脱衣場でしばらく過ごして頂いた

結果

安心して入浴されるようになった

行動

ベッド柵をまたぎ降りようとされる

その行動の
奥にある気持ちとは

・家では布団で就寝しており
ベッドになじみがない

対応

畳調のジョイントマットを居室にに敷き詰め
布団対応にした

どうなった？

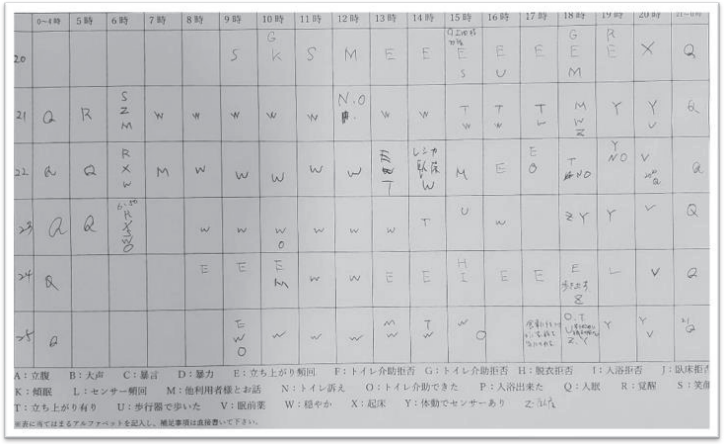
途中で目が覚められても、安心して再度入眠されるようになった

対応の経過観察方法

- 24時間シートの作成

横軸　時間

縦軸　日付



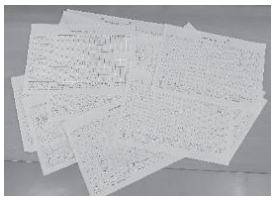
ポジティブな面
・おだやかに過ごされた
・他利用者とお話し
・入浴できた

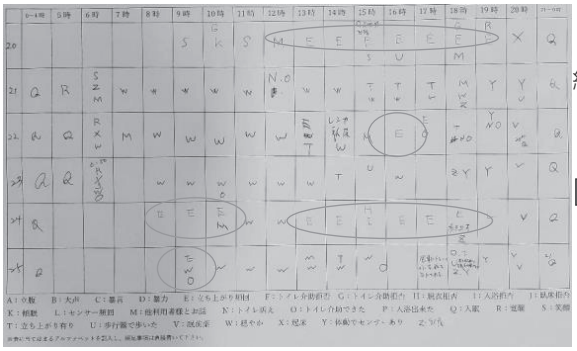
ネガティブな面(赤文字)
・立腹された
・手をあげられた
・入浴拒否

を　記載　職員間で共有

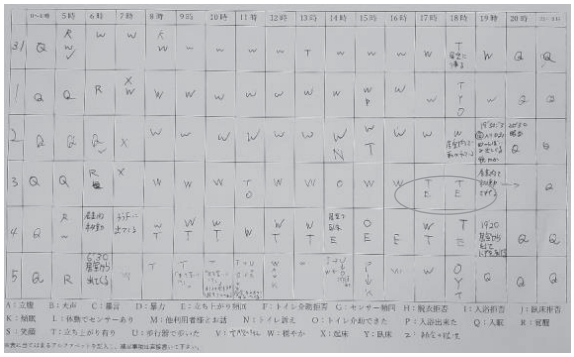
★このように対応したら
良い反応があった！等
コメントも記載

経過





約2か月後



赤文字が減少＝ネガティブな時間帯が減り　おだやかにすごされる時間が増えた

事例２、Ｂさんの場合

- 80歳代　　女性　　要介護度4
  認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲｂ
- 車椅子介助
- 看取り対応

1．看取り対応になられた方への対応

①ベランダにプランターを設置し花を植えた、花の写真を飾った。

②高校生時代にバスケットボールをされていたとの情報から部屋の
かざりつけを工夫

③フロアのイベントで、焼き芋を召し上がって頂いた。

④ベランダでさつまいもを栽培し、芋堀りをして頂いた。

①ベランダにプランターを設置し花を植えた、花の写真を飾った。

②高校生時代にバスケットボールをされていた→部屋の飾り付けを工夫

当時を懐かしんでおられる

ゴールめがけてシュート

③④焼き芋とさつまいもの栽培

焼き芋を召し上がって頂いた

芋掘りをして頂いた

２．仙骨の突出により、車いすに座ると痛みが強いが、臥床すると「起きたい」との要望が強い

①居室で過される際の寂しさを緩和させるために、フロアが見える居室に変更した。

②車いすに座っても痛みが出にくいように、リクライニング式の車いすに変更し、座布団も見直した。

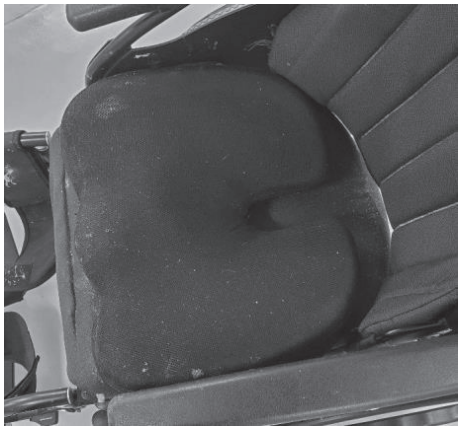
①居室で過される際の寂しさを緩和させるために、フロアが見える居室に変更した

部屋から廊下しか見えない

フロアも見える

フロアの職員や入居者に手をふられ、笑顔が増えた

②車いすに座っても痛みが出にくいように、リクライニング式の車いすに
変更し、座布団も見直した。



痛みが軽減し、座る時間が増え、話す機会も多くなり、笑顔が増えた

3．食べることは好きだが、嚥下障害があり、ムセが多い

食事形態をミキサー粥、ペーストの変更し、お気に入りの
小皿に移して替えて少しずつ召し上がって頂いた。

まとめ

・行動そのものだけではなく、その奥の想いに着目し、
対応することで、問題となるような行動を改善し、穏やかに
過ごして頂けることがわかった。

・個人だけで考えず、多職種で連携する事の大切さを学んだ。
更には、入居者本人からの聞き取りや、家族もチームとして
巻き込むことで、生活歴からも深堀することができ、
入居者に寄り添ったケアをすることが出来た。

展望

今回ご紹介したような、多職種や家族とも連携し想いに着目した
アプローチで認知症ケアを行う事を特別な事にせず、当たり前になる
よう取り組んでいきたい。

ご利用者の活躍の場
「お仕事デイ」

社会福祉法人　堺福祉会
ハートピア堺
在宅課通所係主任
村尾　健司

平成8年4月開所
大規模多機能施設

特養84床
短期入所16床

通所介護38名
地域密着型通所介護18名

訪問介護ステーション

居宅介護支援事業所

地域包括支援センター
在宅介護支援センター

懐かしミュージアム
「ふらっと三宝」

認知症カフェ
「ハートカフェ」

みんな食堂（こども食堂）
「三宝ハート食堂」

ワーカーズカフェ
「おとひめカフェ」

2

「お仕事デイ」とは

デイサービスのご利用者が、特養ご入所者や施設スタッフからの依頼を受けて、若いころからの特技や経験を活かして「お仕事」として取り組む、ご利用者の活躍できる場。

対価として「お金」を得る

3

これまで

・大工仕事の経験のあるご利用者
　→　メダカの餌箱作り
・包丁研ぎを趣味にしているご利用者
　→　スタッフの包丁、厨房の包丁研ぎ
・家庭菜園が趣味のご利用者の方々
　→　施設裏庭の鉢植えの管理
・クリーニング店を営んでいたご利用者
　→　研修で使用した三角巾のアイロン掛け
・裁縫の経験があるご利用者の方々
　→　デイサービス物品の作成
　　（クッションカバー、ティッシュカバー等）
・喫茶店の経営をしていたご利用者
　→　コーヒーをスタッフへ振る舞う
・コップの洗い物、テーブル拭き、フロア掃除、配布物を連絡帳ファイルへ入れる

等々・・・

4

コロナウイルス感染症の世界的流行

緊急事態宣言、まん延防止等重点措置

・面会の停止
・ボランティアの受け入れ停止
・マスクの着用、手指消毒の徹底
・黙食の徹底
・アクリル板の使用
・３密対策　　等々・・・

~~ご家族との交流~~
~~ご利用者同士の交流~~
~~ボランティア様との交流~~

5

ゼロベース委員会

目的

ケアを一から見直し、今までのやり方や習慣にとらわれることなく自由な発想で考えていく

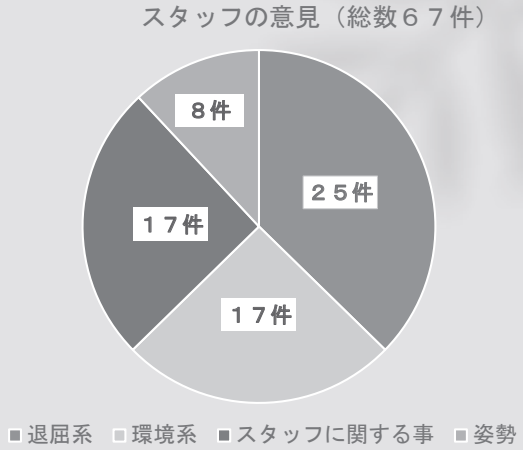
施設課介護係　４名
施設課支援係　２名
在宅課通所係　３名
在宅課訪問係　１名

ご利用者の気持ちを理解する（利用者体験）

6

ブレインストーミングで共有

感じたこと、気づいたことを出しあった。



7

特養の課題

衣類の乱れ

ボタンが取れている

襟元がヨレている

ゴムがゆるい

＋

デイの課題

することがない

座っているだけ

居眠っている

誰とも話していない

特養ご入所者の衣類をデイご利用者に修繕してもらう

『お仕事デイ』の誕生！！

8

お金の仕組み

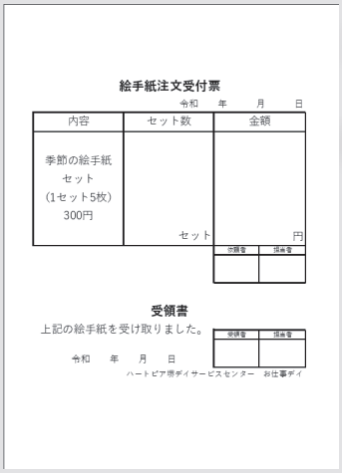
各部署、各階の予算を利用。

値段の設定は

「材料費」+「作業時間」

売り上げは活動費用として利用。

（材料、道具の新調等）



絵手紙注文受付票

令和　年　月　日

内容	セット数	金額
季節の絵手紙 セット (1セット5枚) 300円	セット	円

世話者	技術者

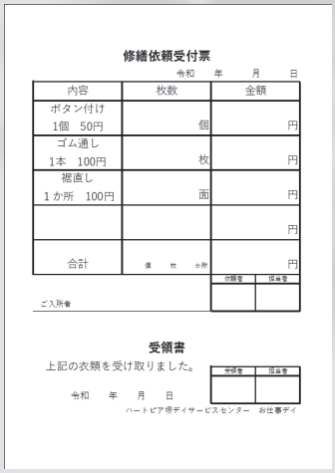
受領書

上記の絵手紙を受け取りました。

世話者	技術者

令和　年　月　日

ハートピア堺デイサービスセンター　お仕事デイ



修繕依頼受付票

令和　年　月　日

内容	枚数	金額
ボタン付け 1個　50円	個	円
ゴム通し 1本　100円	枚	円
裾直し 1か所　100円	面	円
		円
合計	個　枚　か所	円

世話者	技術者

ご入所者

受領書

上記の衣類を受け取りました。

世話者	技術者

令和　年　月　日

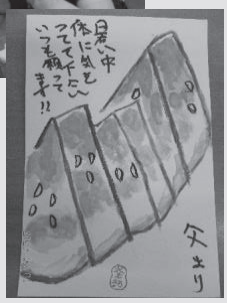
ハートピア堺デイサービスセンター　お仕事デイ

9

手芸クラブ

10

絵手紙クラブ



「お仕事デイ」に取り組んで

ご利用者が活躍できる
自分の役割として意欲を持って取り組める
人の役に立つ

- 新しい繋がり
  特養ご入所者⇔デイご利用者
- 積極的な姿勢
  主張が増え、ご利用者同士の
  意見交換が増えた
- 人の為への喜び
- ご利用者ご家族の驚き、喜び
- ご利用者と一緒に作り上げる楽しさ
- 任せることの重要性
- スタッフが活躍する場になった
- ご利用者と関わる、知る機会が増えた

12

『お仕事デイ』のこれから・・・

〇活動内容の充実
〇仕事量の調整
〇地域への発信

13

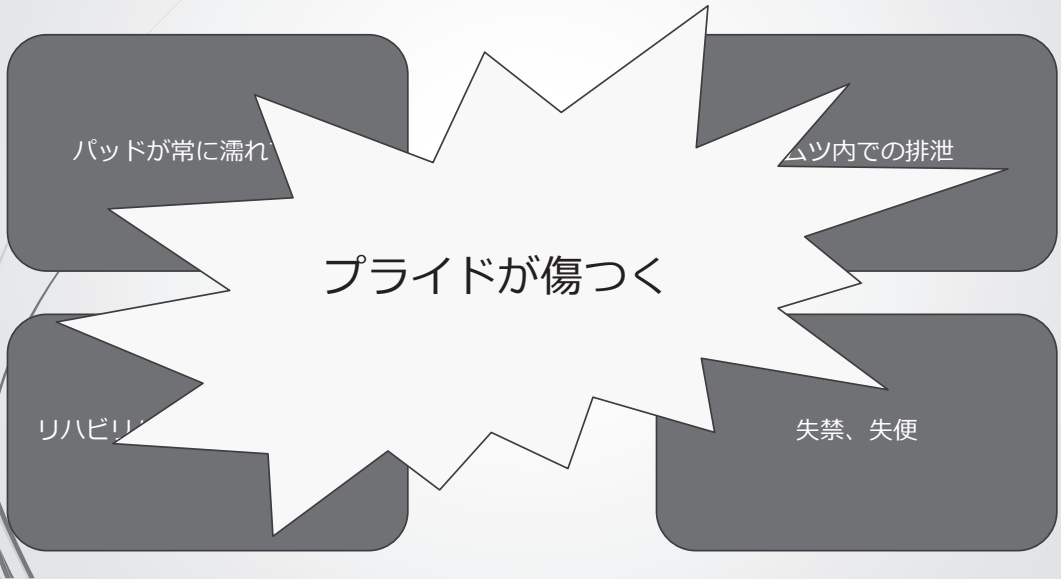
ご清聴、ありがとうございました。

14

プライドケアレボリューション

四天王寺福祉事業団　特別養護老人ホーム紅生園

あたりまえになっていませんか？



トイレ環境

トイレ環境（居室）

トランス

パッドの種類

【トイレ用】
吸水量目安
450cc
【トイレ用】
吸水量目安
550cc
【オムツ用】
吸水量目安
850cc
【オムツ用】
吸水量目安
1100cc
4種類から
2種類へ
【トイレ用】
吸水量目安
400cc
【オムツ用】
吸水量目安
850cc

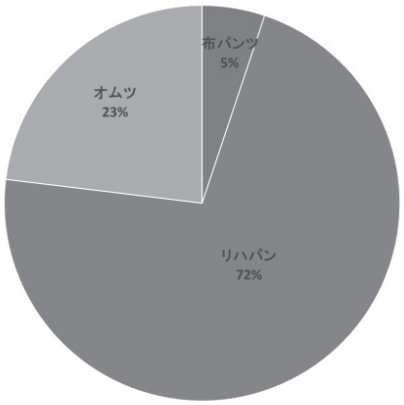
排泄チェック表

名前	時間		0-29	7	30-59	0-29	8	30-59	0-29	9	30-59	0-29	10	30-59	0-29	11	30-59	0-29	12	30-59	0-29	13	30-59
A様		トイレ	尿		便					○	×										○		×
		パッド	尿		便					×	×										×		×
滞便 −3（ ）																							
名前	時間		0-29	7	30-59	0-29	8	30-59	0-29	9	30-59	0-29	10	30-59	0-29	11	30-59	0-29	12	30-59	0-29	13	30-59
B様		トイレ	尿		便					×	×							○		×			
		パッド	尿		便					○	×							×		×			
滞便 −2（ ）																							
名前	時間		0-29	7	30-59	0-29	8	30-59	0-29	9	30-59	0-29	10	30-59	0-29	11	30-59	0-29	12	30-59	0-29	13	30-59
C様		トイレ	尿		便					×	×	○		×									
		パッド	尿		便					×	×	×		×									
滞便 −3（ ）																							
名前	時間		0-29	7	30-59	0-29	8	30-59	0-29	9	30-59	0-29	10	30-59	0-29	11	30-59	0-29	12	30-59	0-29	13	30-59
D様		トイレ	尿		便					○	×										×		×
		パッド	尿		便					×	×										○		×
滞便 −3（ ）																							

リハビリパンツから布パンツ推移

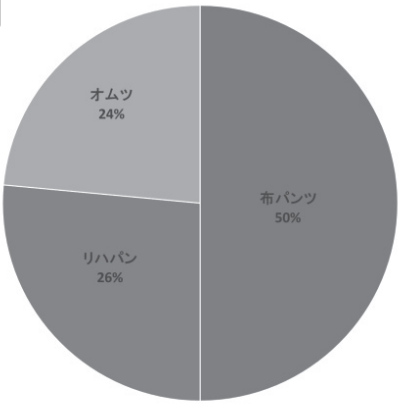
【着用アイテム】

4月

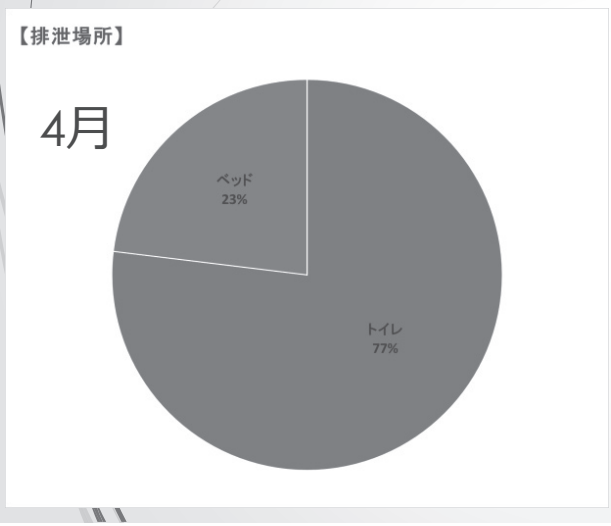


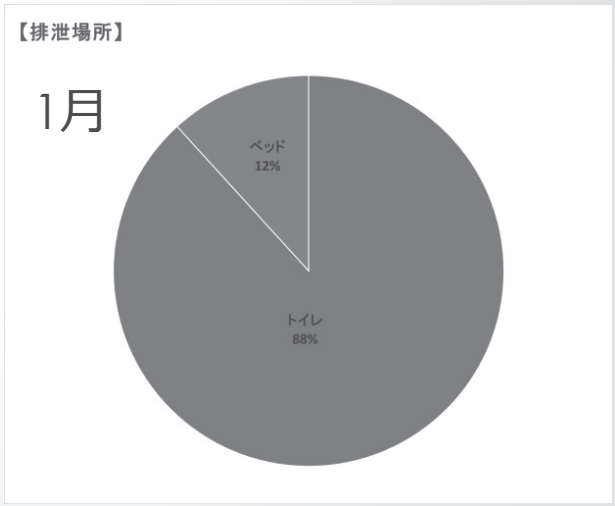
【着用アイテム】

1月



排泄場所推移





今後の課題
下剤の見直し

- 水分量
- 運動
- しっかりトイレに座って頂く
- オリゴ糖

自然排便を促していく

最後に

2025問題も控え　超高齢社会においての人材不足問題は進んでいく。
特養は重度の方を少ない人数で見なくてはいけなくなる。
その中で**画一的な集団ケア**から**能動的な個別ケア**へのシフトし
現場からご利用者を一人ひとりと捉え元気していく
ご利用者が元気になる事で介護士としてのやりがいを感じる職員が増える施設を目指していく。

個別ケアの実践
～一人ひとりの暮らしの継続～

社会福祉法人　玉美福祉会
特別養護老人ホーム　向日葵

ユニットリーダー　北浦　渚
介護課長　谷本　文子

社会福祉法人 玉美福祉会

社会福祉法人　玉美福祉会

3つの「輪」は、地域社会・利用者・施設を意味し、人の「輪」を表現しています。

1、利用者とともに
「幸福」を共有できる、明るく楽しい生活を創造します。

2、地域社会とともに
地域の良き社会資源として愛され、良質で均一なサービスを提供し、地域社会の福祉の向上に貢献します。

3、職員とともに
内に「和」を守り、外に「信用」を固め、域外のある環境をつくり、お互いに信頼し、信頼される関係を築きます。

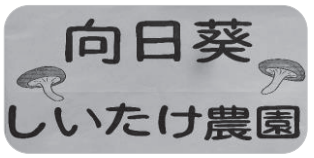
社会福祉法人 玉美福祉会

24アセスメントシート

【 24生活アセスメントシート】

24生活シート

私ができること。したいこと。



できることはなんでもさせてくださいよ！

ご本人が必要とされる介助だけを行っています。

足元に滑り止めを敷いて・・

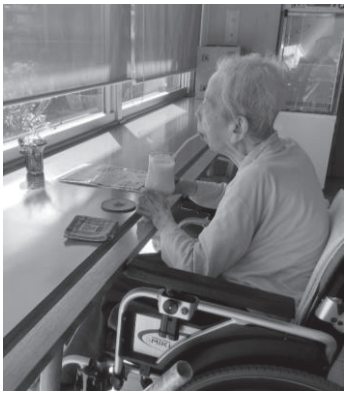
後方を支えていてね。

座位保持に向けて!!

安定した姿勢で普通型車椅子にすわることができ、
リビングで過ごす時間も増えました。

とても穏やかな
表情をされてい
ます。

向日葵　喫茶



多世代交流　小学生訪問

秋祭りだよ!!全員集合～!!

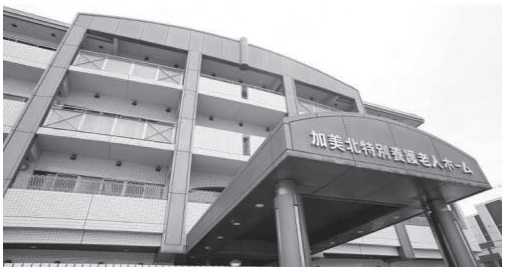
屋台やゲーム、盆踊りを施設の方も地域の方も一緒に楽しみました。

一人ひとりの暮らしの継続を目指して・・・。

1年目から生活相談員ができる仕組み
～和悦会だからできること～

加美北特別養護老人ホーム　加美北デイサービスセンター
生活相談員　梶野菜紀・小林明日香・殿浦若菜

施設紹介・自己紹介



・地域包括支援センター

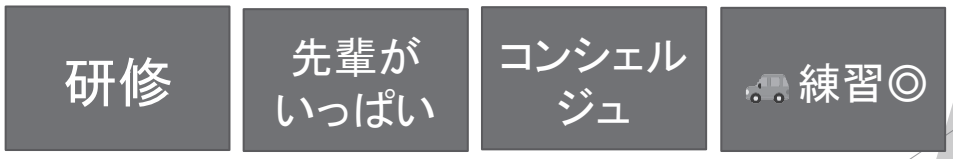
・ケアプランセンター

・デイサービス

・特別養護老人ホーム

和悦会に入職しようと思ったきっかけ

一年目から生活相談員！



「一年目で相談員」

⬇

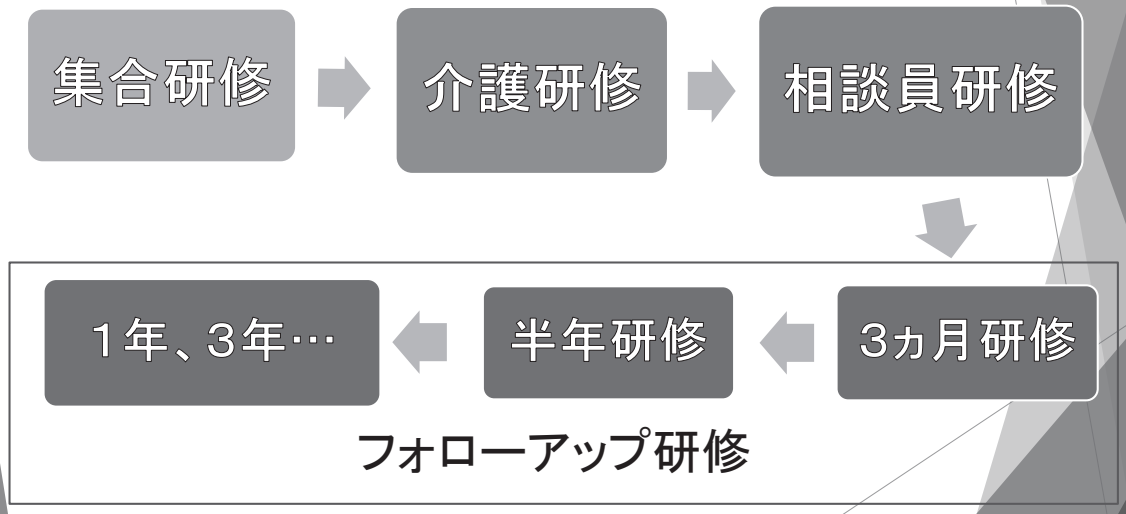
そうして働いてきた先輩たちは
相談員として活躍している

⬇

つまり、それができる
環境があるはず！！

不安に思っていたこと

研修



業務内容
～デイの相談員の場合～

1日の予定

・送迎
・CM、家族様へ情報共有
・利用者様の見守り
・面談、契約

月間予定

・サービス担当者会議
・サービス提供票確認
・利用状況表の作成
・通所介護計画書作成
・施設見学対応

業務内容
～特養の相談員の場合～

1日の予定

・記録の確認
・受診付添
・記録作成、申し送り
・退院調整
・モニタリング

月間予定

・入所に関する業務
　①相談
　②面談
　③契約
・救急搬送
・会議資料作成

先輩職員・上司のフォロー①

▶ 4 名の上司と先輩職員

→相談員の人数が多い！常に相談できる環境

▶仕事の見える化

先輩職員・上司のフォロー②

マンツーマン**指導**

見学
- ·手順・意識していることを学ぶ。

練習
- 上司の見守りのもと、主体となって業務を行う。
- フィードバックをもらう。

本番
- 単独で業務を行う。

段階的に実践へ。

困ったこと

成功体験①

●病院→施設に来られた人の話

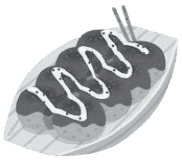
「すごく優しくされてるんですね」との声掛け

→施設の案内を尋ねに来られた

◎相談員らしい振る舞いができていたのかと嬉しかった

◎地域の方に好印象を抱いていただいた

成功体験②



▶お看取りのお部屋づくり

「思い出にあふれた部屋で、
一緒に過ごした時間を振り返ることが出来た」

今後の目標
～3年後の自分～

①判断基準を増やし多方面から信頼される相談員に

②家族様の気持ちに寄り添える、誠実な相談員に

③言い出しにくいことも話してもらえる相談員に

ご清聴ありがとうございました。

介護職員のミカタ
無資格未経験からのスタート

介護職のイメージが変わった
自信をもって言える「**私達は介護職です！**」

社会福祉法人　五常会
特別養護老人ホーム　ゆーとりあ

介護職員　　谷野光弥
　　中垣佑梧

施設紹介

平成27年4月1日開設
ユニット型特別養護老人ホーム
入居　　：80名
短期入所：20名
平均介護度4.13（R5.12月現在）

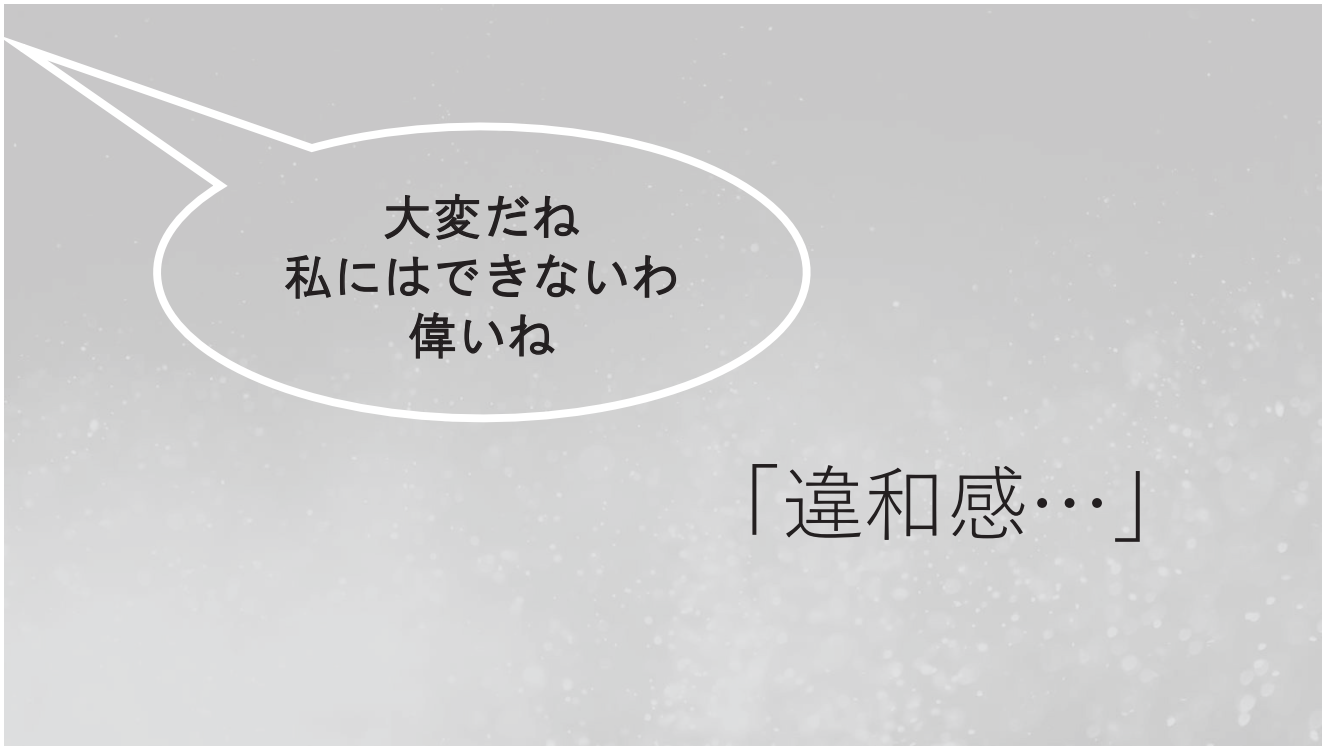
法人理念

一人ひとりの思いを暮らしに映す

私たちは理念実現のため皆さまの
「あたりまえの暮らし」
「おもいおもいの暮らし」
「つながりある暮らし」
をつくり、まもり、ささえることに
全力を尽くします。

介護方針

- 椅子に座って食べる
- おむつはもしものために
- お風呂は一人でのんびりと
- お休みの時間まで自由に好きに
- できることを減らさない
- 日々、気持ちに寄り添って



【介護における３K】
きつい・汚い・危険

入社前の私達のイメージ

精神的に きつい（つらい）	排泄のお手伝い が難しい	食べこぼし等 不衛生	命を預かる リスク

友人や知り合いからの介護のイメージ

気持ち悪い （汚い）	自分には できない	しんどそう	誰でも職に 就ける

周囲と一番かけ離れたイメージ…
「危険」に対しての考え方…

「危険」リスクに対して頑張ったこと

・正しい介護方法の習得
・福祉用具使用方法の習得

・ICT・IOT、介護ロボットの活用

・認知症に関する専門的知識の習得
・一人ひとりを深く知る

リスクヘッジ

職員連携

不安の軽減

・正しい介護方法の習得
・福祉用具使用方法の習得

・スライディングボード
・スライディンググローブ
・フレックスボード
・スライディングシート

・スライディングボード

・スライディンググローブ

・フレックスボード

・スライディングシート

ご入居者が安心されていた（喜んでいた）

介護の技術が身についた（かっこよく見える）

身体に掛かる負担が減った（楽になった）

介護方法が統一できた（悩まなくていい）

状態に合わせてお手伝いを行えるようになった

「危険からのイメージの変化」

・ICT・IOT、介護ロボットの活用

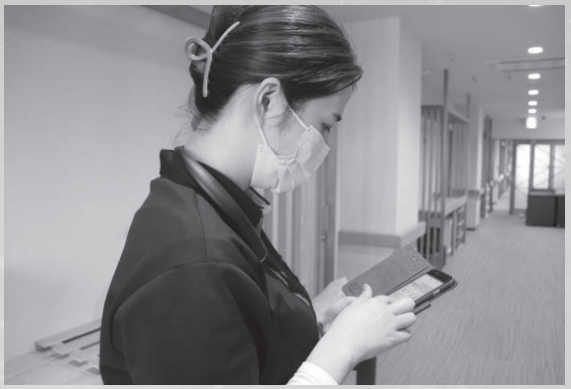
ICT・IOT機器（情報通信技術）
・iPhone端末
・記録システム（ケアパレット）
・通信システム（ネックスピーカー）
（肩にかけて使用するオーディオ機器）

介護ロボット
・予測型見守りシステム
ネオスケア

【ICT・IOTの活用】

iPhone端末 & ケアパレット

- ケア内容を共有
  （ケアプラン・24時間シート）
- ケア内容の統一、標準化
- リアルタイムに記録できる
- 写真、動画の活用
- 多職種連携
- 業務効率化



【ICT・IOTの活用】

ネックスピーカー

- リアルタイムに情報共有
- 状態、状況に合わせた柔軟な協力体制（2ユニット単位・フロア単位など）
- 多職種連携
- 業務効率化

予測型見守りシステム
ネオスケア

【結果】

入社前、入社直後の私のイメージ

精神的にきつい（つらい）	排泄のお手伝いが苦手	食べこぼし等不衛生	命を預かるリスク

今の考え方（３年目）

落ち着いて対応することができるようになった。	綺麗にすることで気持ちよく過ごして頂ける。	ご状態に合わせて、必要なお手伝いを行い衛生的な環境が可能。	頼って頂けることが増え、ミスが無いように気を付けている。

【今後の課題】

・ICT、IOTの活用しもっと便利で楽しい職場にしたい。

・専門性を高め、安全に、長く働ける職場にしたい。

・無資格未経験の方が、安心して働ける職場にしたい。

・そして、プロフェッショナルとして活躍する！！

ご清聴ありがとうございました

コロナ後遺症を抱えながら働き続ける事

社会福祉法人　こばと会
特別養護老人ホーム　いのこの里
森田正伸

自分を知って頂く為に…

- 1975年生まれ　現在　48歳
- 家族構成　妻　子供3人
- 2001年　4月　いのこの里入職
- 現在の役職　ショートステイ　主任

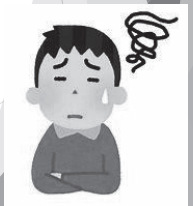
コロナウイルスに感染

2020年　家庭内感染でコロナウイルスに感染

- 身体の中を虫が這いずり回る感覚…
- 眠れない・座れない・横になれない…部屋の中を歩き回る事しかできない
- 食事も摂りたくない…治すために食べる・飲む…嘔吐する
- 3日～4日後に、劇的に症状は改善する…
  しかし、倦怠感は残っている
- 療養期間を終えて、仕事復帰するが…

仕事に無事(？)復帰する…感じたことのない違和感

- 無くならない倦怠感…ずっと身体が重く、だるい
- 突然の吐気…職場のみんなに隠れて、トイレで吐く日々
- パソコン画面…特にエクセルの表が目に焼き付く
- オーディオの音・マイクの音が頭の中を反響する
- 頭の中で物事の整理が出来ない・考えを構築することが出来にくい



- 病院受診するも、コロナ後遺症の治療が確立されておらず、服薬治療…

⇒効果もほとんど見られず

不安・焦り・絶望が徐々に大きくなっていく。
何もかもが嫌だ　なぜ自分だけ…

主任という立場もあり、任されている仕事が出来ない。

復帰当初は、後遺症のことは言えず、理解されず、不十分な仕事に多々指摘や、差戻しされる日々…

きっと、家族も職場のみんなも迷惑してる…

もう嫌だ…辞めたい…逃げたい…

支えられている事に気付く…

【職場仲間】

「森田さん、しんどいんでしょう。無理してるでしょう。いろいろ隠してるでしょう。」「みんなわかってますよ…」

「何が出来にくいですか？」「出来る事は何ですか？」

隠していたつもりが、異変に気付いてくれていた…

【家族・友人】

今思うと…泣き言・恨み言・強く当たる事・感情の起伏…

全部、聞いてくれていた

さらけ出した自分を理解してくれる仲間

【出来にくくなったこと】

- 17：00～19：00に特に体の不調がある事が多いと分かって来た
- 勤務表の作成が出来にくくなった
- ZOOMでのユニット会議の開催が出来にくい

【出来る事】

- 対人介助・援助は、今まで通りできる事
- 職員チームの支援・指示・指導は行う事が出来る
- 利用者・入居者の不安の時の苦しみが、今まで以上に具体的に理解できるようになっていた。

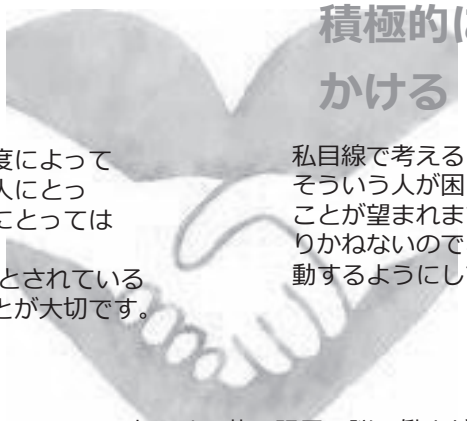
点の支えから…面の支えに

【具体的な支援策】

- 体調不良の時間をさけるための、勤務調整の支援
- 一部のパソコン業務を、他職員が代行して行う
- 会議の方法の変更その他…もろもろの支援

いのこの里内における
点の支援は…同じ部署内の職員個人からの支援
面の支援は…特異な働き方への理解とバックアップ

皆さんに伝えたいこと



見えない後遺症の実際を理解

後遺症の種類や個人の障害の程度によって応対の仕方が異なります。ある人にとっては助けとなることが、別の人にとっては苦痛となることすらあります。
相手の身に なって、本当に必要とされている援助をよく見極め、判断することが大切です。

積極的に声をかける

私目線で考えると、すぐに解決できなくても、そういう人が困っていたら積極的に声をかけることが望まれます。一方的な援助は迷惑にもなりかねないので、必ず本人の意思を確認して行動するようにして下さい。

穏やかな口調で接する

中には、薬の服用で脳の働きがゆっくりしている人や、何かの拍子に興奮したりパニックになったりする人がいます。話すときはできるだけゆっくりおだやかに、理解できるまで繰り返し説明してください。

最後に...

- 障害・後遺症・病気を抱えながら、働き続けている方がたくさんいる現実
- 個人(職員)の優しさだけでは、どうにもならない事だから...

～そのひと(職員)を知ろうとしてください～

- 法人として施設として、そのひと(職員)に合った、働き方が提供・提案・実施が出来るのか...ともに考えていくことが大切

- 社会福祉法人こばと会　岩崎敏子先生の言葉...
  「ひとは、宝」

令和５年度
高齢者福祉実践・研究大会 in OSAKA

もっと部下と
コミュニケーションを取ろう！

（ 次を担う職員の育成に対する取組 ）

日　時 ：2024年 2日 13日（火曜日）
14時15分 ～
会　場 ：あべのハルカス 23階 キャンパスフロア

＜ 自 己 紹 介 ＞

氏　名 ： 西尾（にしお）　正敏（まさとし）（社会福祉士）

所　　属 ： 社会福祉法人　美木多園（美樹の園）理事長
特別養護老人ホーム 美樹の園　施設長

所属団体 ： 堺市老人福祉施設部会 会長
公社）大阪介護老人保健施設協会
総務委員会 人権問題部会 部会長
NPO法人 すまいるセンター 共同代表
公財）泉北のまちと暮らしを考える財団　理事
など

＜社会福祉法人 美木多園 が行っている事業＞

特別養護老人ホーム　美樹の園
老人保健施設　美樹の園
グループホーム　美樹の園
デイサービスセンター　美樹の園
デイサービスセンター小代　美樹の園
ほか　生活支援住宅、居宅介護支援、地域包括支援センター
などのサービスも提供しています。

今日の私からのお話は･･･

管理者が職員と研修会を通じて
自分語りをする
そんな お話をします

最近 職員に対して

こんなことを感じることが増えました・・・

・何でこんなことをするんだろう？
・職員が何を考えているかわからない
・当たり前 常識が通じない
・言ったことが理解できていないかも？

ワタシと職員の関係は
例えると こんな感じなのかも？

悩んでいても仕方ない

職員と話す機会を作って理解してゆこう

ではどうやって？

理事長が講師となって
研修会を開き、職員と会話の機会を作る事に

＜ 研修の目標として ＞

・職員とコミュニケーションを取ること
・理事長の運営手法や考え方を知ってもらうこと
・自由な発想と意見交換するのに慣れること

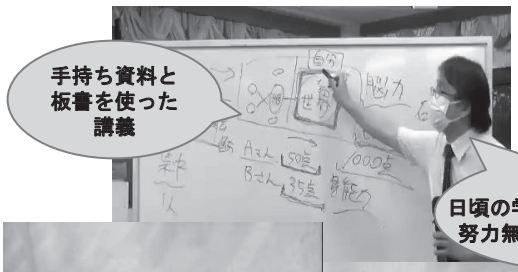
実施した研修の概要

実施時間： 各18:45～19:45（60分）
参 加 者： 中間管理職クラス 19名
参加方法： 集合とオンライン併用

第１回目
　６月２８日　他者理解のススメ「あなたは他人とは違う」
第２回目
　８月２３日　間違うことの必要性
第３回目
　９月２７日　間違うことの必要性　追加分
第４回目
　１０月２５日　リーダーの役割と資質
第５回目
　１１月２２日　リーダーの役割とクルーリソースマネジメント
第６回目
　１２月２７日　リーダーという役割分担に必要な要素
第７回目
　１月２４日　リーダーという役割分担の実践
第８回目
　２月　９日　リーダーという役割分担の実践　２
第９回目
　３月２８日　リスクへの対応方法

受講風景

第１回目　６月２８日
他者理解のススメ「あなたは他人とは違う」



手持ち資料と
板書を使った
講義

オンライン
併用

他者理解は
日頃の学習と観察と情報交換
努力無くして成り立たず！

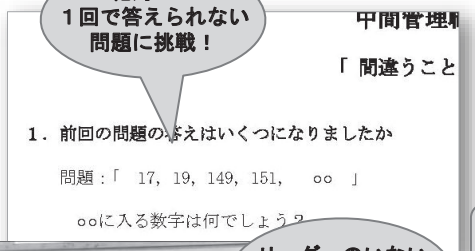
左利き用の
缶切りを何も言わずに渡して
缶を空ける体験

曖昧な指示で
工作をしてもらい
模範解答と比較する体験

受講風景

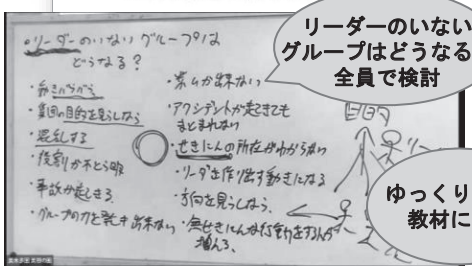
第２回目　８月２３日
間違うことの必要性

絶対！！
１回で答えられない
問題に挑戦！



同時に
両方が認知できない
脳の限界

あえて間違う状態を作りだし
答えに近づくための手段を全員で考える



リーダーのいない
グループはどうなる？
全員で検討

出典：youtube.com/@yukkuri-mountain

ゆっくり動画も
教材に使用

リーダーの必要性を
改めて考える機会を一緒に持つ

第５回目　１１月２２日
リーダーの役割とクルーリソースマネジメント

講義を終えて

職員の感想

効果は？

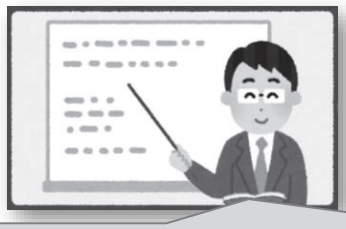
効果はこれからだけど･･･

・職員の定着
・業務効率アップ
・管理職の意識向上
・現場対応力向上
などに効果アリ？

数値化出来るような効果は認められませんが、目標は達成し、職員が良い方向に向いている感じを受けました。

講義を振り返って

講師側の感想



- **講義を企画することで、職員に伝えるべき事を整理することが出来た。→ Good!**
- **質問や意見を交わすことで、職員の意外な返答や質問を受ける事が出来、職員に対する理解が進んだ。→ Good!**
- **講義を計画・実施するのが管理者であるため、準備や講義時間の確保が課題となる。→ Bad!**
- **職員は学習したことを実践しなければ忘れていくため、定期的に行う必要を感じた。→ Bad!**

まとめ

- 勤務時間内外の飲み会が減り、労働時間の縮小への取組、オンライン会議など。職員と関わる時間が近年減少している。また職員の気質が変化し、これまでのやり方では通じなくなってきた。
- そんな状態でも、次世代を担う職員の教育は行わなければならないが、今回の取組はその解決策の一つとなりうると思われ、今後改良して実施したい。

ご静聴

ありがとうございました！

外国人技能実習生の受け入れ施設の展望、そしてその先へ

社会福祉法人宝生会　ブレス南花田　　相談員 井野　学
施設長 竹信　匡太

施設の概要

■大阪府堺市北区南花田町531番地

地域密着型特別養護老人ホーム
ブレス南花田
ショートステイ　ブレス南花田
第２デイサービスセンター
ブレス南花田

入所定員　29床　　ショートステイ10床
全室個室　ユニット型

現在当施設では

技能実習生　５名在職中、

日本人職員　１４名在職中（夜勤専従以外）

２階 入所ユニット、ショートステイユニット

技能実習生３名　日本人職員７名

３階 入所ユニット　技能実習生２名　日本人職員７名

発表タイトル

外国人技能実習生の

受け入れ施設の展望、

そしてその先へ

発表内容

外国人技能実習生が

成長できる職場環境作り

外国人技能実習生が
成長できる職場環境作り

取り組みに至った経緯

・技能実習生の成長が明確に見えない
・技能実習生の来日の目的
・技能実習生の成長を目指す

法人理念

生きるよろこび
生きている幸せ
生きることは宝

令和６年度の施設の目標

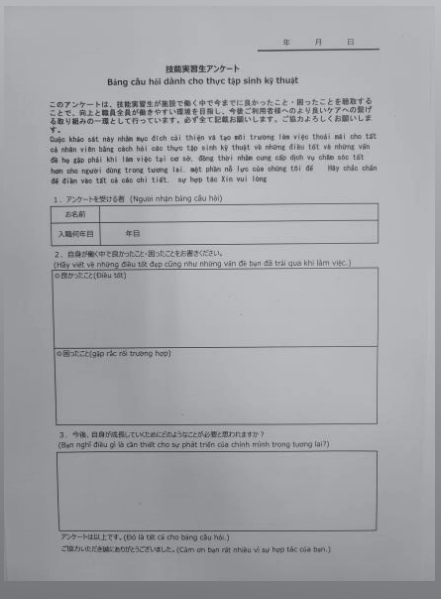
「できると思う」

「技能実習生と日本人職員へアンケートを実施」

【技能実習生】
- 日本人職員と働いていて
  良かったこと
  困ったこと
- 自身が成長するためは何が必要か？

【日本人職員】
- 技能実習生が働いていて
  良かったこと
  困ったこと
- 技能実習生が成長するためにできるサポートは？

「使用したアンケート用紙」



年　月　日

技能実習生アンケート
Bảng câu hỏi dành cho thực tập sinh kỹ thuật

このアンケートは、技能実習生が施設で働く中で今までに良かったこと・困ったことを聴取することで、向上と職員全員が働きやすい環境を目指し、今後ご利用者様へのより良いケアへの架け橋る取り組みの一環として行っています。必ず全て記載お願いします。ご協力よろしくお願いします。

Cuộc khảo sát này nhằm mục đích cải thiện và tạo môi trường làm việc thoải mái cho tất cả nhân viên bằng cách hỏi các thực tập sinh kỹ thuật về những điều tốt và những vấn đề họ gặp phải khi làm việc tại cơ sở. Đồng thời nhằm cung cấp dịch vụ chăm sóc tốt hơn cho người dùng trong tương lai, một phần nỗ lực của chúng tôi để　Hãy chắc chắn để điền vào tất cả các chi tiết.　sự hợp tác Xin vui lòng

1．アンケートを受ける者（Người nhận bảng câu hỏi）

お名前	
入職何年目	年目

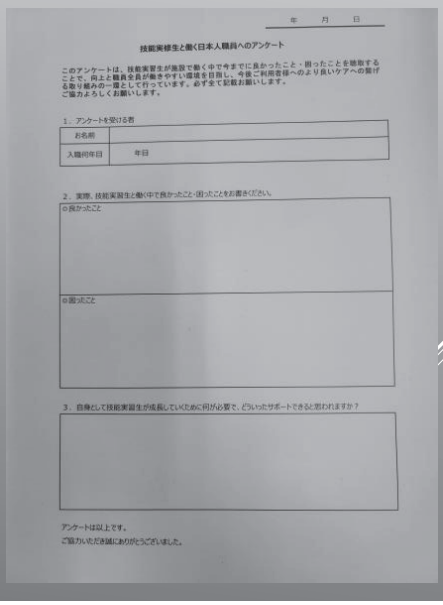
2．自身が働く中で良かったこと・困ったことをお書きください。
(Hãy viết về những điều tốt đẹp cũng như những vấn đề bạn đã trải qua khi làm việc.)

○良かったこと(Điều tốt)

○困ったこと(gặp rắc rối trường hợp)

3．今後、自身が成長していくためにどのようなことが必要と思われますか？
(Bạn nghĩ điều gì là cần thiết cho sự phát triển của chính mình trong tương lai?)

アンケートは以上です。(Đó là tất cả cho bảng câu hỏi.)
ご協力いただき誠にありがとうございました。(Cảm ơn bạn rất nhiều vì sự hợp tác của bạn.)



年　月　日

技能実様生と働く日本人職員へのアンケート

このアンケートは、技能実習生が施設で働く中で今までに良かったこと・困ったことを聴取することで、向上と職員全員が働きやすい環境を目指し、今後ご利用者様へのより良いケアへの架け
る取り組みの一環として行っています。必ず全て記載お願いします。
ご協力よろしくお願いします。

1．アンケートを受ける者

お名前	
入職何年目	年目

2．実際、技能実習生と働く中で良かったこと・困ったことをお書きください。

○良かったこと

○困ったこと

3．自身として技能実習生が成長していくために何が必要で、どういったサポートできると思われますか？

アンケートは以上です。
ご協力いただき誠にありがとうございました。

「技能実習生アンケート結果」

【良かったこと】
・日本人職員が助けてくれる、優しい
【困ったこと】
・日本語の理解が読む、書く、聞くといった面が難しい。
【成長のために必要なこと】
・日本語の勉強が必要

「日本人職員アンケート結果」

【良かったこと】
・仕事をやめない、献身的に業務を行う
【困ったこと】
・状況に応じた話が伝わりにくい、ニュアンスが伝わりにくい
ケース記録を読むも状況が理解しにくい
【成長のために必要なこと】
・職場での日本語の読み、聞き、書き、会話の勉強

「アンケート結果から分析・問題点」

・日本語による、話す、聞く、書く、読むといったことが難しい。
・通常業務中、緊急対応中などにタイムロスが生じることがある。
・日本語の理解が難しい面から技能実習生からの業務やケアに対する考えや意見の表出が出ない。
・技能実習生の日本語の成長が必要。

「対策内容」

・技能実習生へ日本語の勉強会を行う。
・勉強会の細分化。
　「聞く」・「話す」・「書く」・「読む」
・各会議・各委員会への出席。

「まとめ」

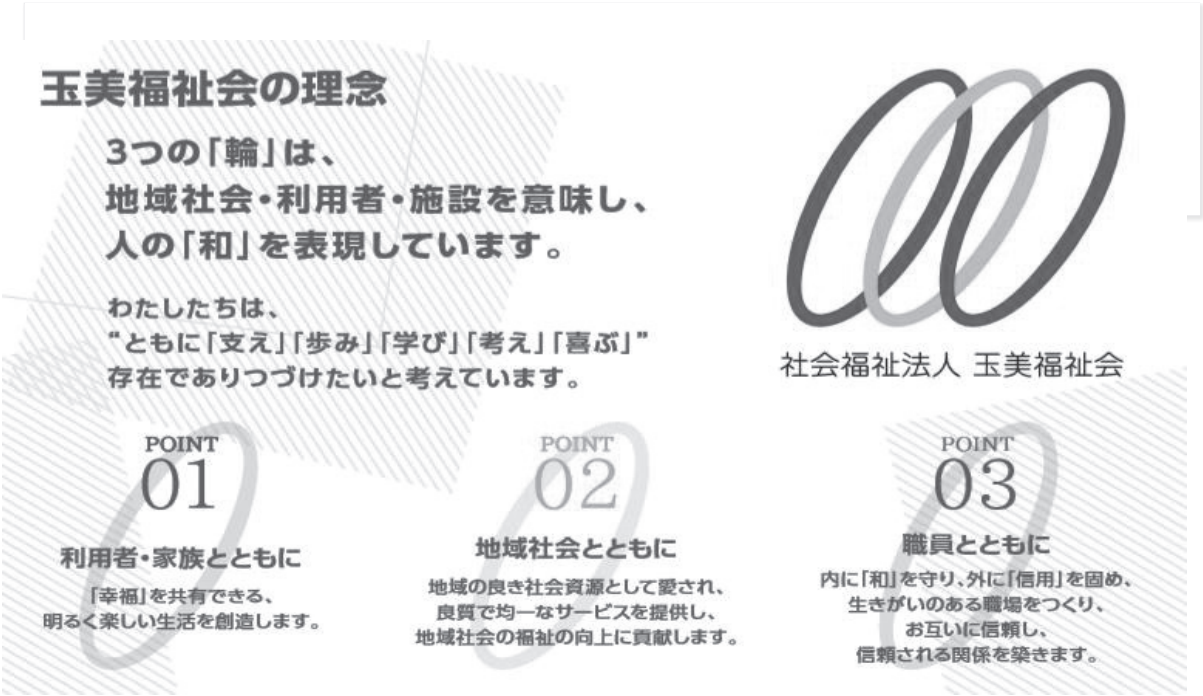
取り組んでいる中で、技能実習生、日本人職員両方から「この取り組みから成長・やりがいへとつながれば」との話が出ました。取り組み始めてまだ間もないので結果についてはまだ望めませんが定着化していくことで技能実習生が日本語を学べる環境にあるんだとのことと、自身の業務・ケアについても表出ができるとの成長、日本人職員は技能実習生の新たな考えを知ることで業務、ケアの内容に対し成長となると考えます。その先には技能実習生を受け入れる施設として今まで以上に成長できると考えています。

ご清聴ありがとうございました。

外国人の育成に関して

社会福祉法人 玉美福祉会

特別養護老人ホーム八戸ノ里向日葵
五十嵐　拓也（ユニットリーダー）
ラユ（ユニットリーダー）



玉美福祉会の施設MAP

在宅介護サービスセンター
和光

総合ケアセンター
八戸ノ里向日葵

幼保連携型認定こども園
古市たいよう学院

高齢者ケアセンター
向日葵

高齢者ケアセンター
サテライト向日葵

幼保連携型認定こども園
たいよう学院

総合ケアセンター　八戸ノ里向日葵

サービス内容

- 特別養護老人ホーム
- ケアハウス（軽費老人ホーム）
- ショートステイ
- デイサービス
- ホームヘルプサービス

施設紹介

浴　室

機能訓練

ラウンジ

現在の外国人受け入れ人数

2014年～2024年で計61名の外国人職員が働いている。

国籍	人数	特定技能	EPA介護福祉士	EPA候補者	在留資格介護
フィリピン	23	1	3	16	3
ベトナム	22	3	0	17	2
インドネシア	16	0	4	10	2

外国人職員増加による課題・・・

・申し送りをしない（できない）

・お変わりないですかと聞くと「何もない」というが発熱者などの特変がある。

・「わかりました」と言って理解していない

・細かい気づきがなかなか伝わらない

・他職種との連携

日本語のレベル、パーソナリティ、文化、さまざまな点が混ざり合い課題となっている現状がある。

このままでは、適切なケアが提供できなくなってしまうのでは・・・

育成に向けての取り組み

- 施設内の外国人向け研修
- タブレットの活用
- ラインワークスの活用
- 同じ国籍の職員によるOJTの実施
- 育成マニュアルの活用

施設内の外国人向け研修

①タブレットの活用

②ラインワークスの活用

●申し送りや情報伝達としては伝わりやすいと感じている。翻訳機能があり日本語⇒多国籍語に変換が可能で通常のラインのように使用できる手軽さがある。

③同じ国籍の職員によるOJT

●日本、フィリピン、ベトナム、インドネシアの職員が混ざって働いているため、日本語だけで教えるのは難しい場合がある。

④育成マニュアルの活用

外国人職員　育成手順書

平成29年4月　作成　｜　令和元年見直し　｜　平成30年1月　見直し　令和4年1月、9月見直し　変更なし
令和4年12月外国人向け内容に変更実施　令和5年10月見直し

★開始日　令和　　年　　月　～　　★終了日　令和　　年　　月　　だいたいできれば終了日記入

●職員名　　●ユニット　　丁目

目的：介護職員の技術の「見える化」を行い、今の技術を把握した上で
効果的にスキルアップができるよう教育していく
教育マニュアルを活用し実践的スキルを身につけていただく
※教育マニュアルはアセッサー評価表を基に作成

評価項目：1.食事、口腔ケア　2.排泄　3.移乗、体位変換　4.状況に応じた対応
5.入浴　6.社会人のマナー　7.各種業務の理解
この6項目を確認項目として行う

評価時期：**入職後の「できた、できていない」の振り返りに使用**

評価方法：各項目毎にABCで評価する。
評価判断は、できる「A」、少し足らない「B」、できない「C」とする。

注意点：**（指導者が教える際の注意点）**
・評価は主観ではなく客観的に判断し自分の価値観で評価しないこと。
・できないから「ダメ」ではなく、少しでもできるように一緒に考える
・「業務主体」ではなく、「入居者主体」の視点で伝えるように
・ユニット間で方法が違うことがあるので自分の方法が100%ではない
・できているところは褒めて、大きく間違えているところは注意をするように

1.食事介助、口腔ケア①

定義	安全な食事介助を行うためには、食べる意欲を促進し、入居者の状況に応じた準備が適切にできているか確認する。また、食事が楽しみになるような介助を行えているか

	チェック項目	1回目 確認台	評価 ABC	2回目 確認台	評価 ABC	リーダー印・備考
①	エプロン、三角巾をきちんと着用できているか					
②	入居者の名前確認、禁忌食の確認を行ってから配膳できているか 配膳時に名前を呼んでいるか。					
③	とろみのつけかた、使用方法を理解し入居者に合ったとろみがつけれているか					
④	声かけ時は利用者の立場に立って優しい口調だと感じる対応ができているか					
⑤	食事の献立を説明し食欲がわくよう声かけを行ったか また口腔体操を実施しているか					
⑥	下膳時に食事量や水分量の確認をし、適切に記録できているか					
⑦	入居者の目線に合わせて介助し、しっかり飲み込みが確認できてから次の食事を口に運んだか					
⑧	自力での摂取を促し、必要に応じて介助を行ったか また、本人の1口量に合わせたスプーンを使用しているか					

1.食事介助、口腔ケア②

	チェック項目	1回目 確認台	評価 ABC	2回目 確認台	評価 ABC	リーダー印・備考
⑨	食後の口腔ケアができているか。					
⑩	義歯着脱時の際は、入居者に着脱を理解してもらい、口を開けて口腔内に傷がつかないよう配慮しながら行えたか					
⑪	自力でできる入居者には、自身で磨ける範囲は磨くよう促したか					
⑫	スポンジブラシやガーゼ等を用いる歯磨きについて理解できているか					
⑬	口腔ケア後は口腔内の確認をしているか 口周りはタオルを濡らして拭いているか					

☆食事介助のポイント
・食事は栄養を摂取するだけではなく、食を楽しむということが人間の尊厳に関わってきます。
入居者が「食べたい」という意欲がわくような声かけを行っていくことが大切です。
・食事の時間が長すぎるとかえって入居者の負担になってしまいます。個人個人の状態を理解し適切な食事時間を把握しましょう。
・口腔ケアは清潔を保つだけではなく唾液の分泌につながり、効率の良い食事動作につながります。

この育成マニュアルはアセッサー

（介護プロフェッショナルキャリア段位制度）を参考にしている。「できる、少し足らない、できない」を指標にしユニットメンバーで共有している。

育成に向けての取り組みをして・・・

この取り組みを行って成長につながっている職員も多く、一定の効果は出ている。

特にラインワークスの活用と同国籍の職員による指導は手軽で効果が大きいと感じている。

日本人職員の気持ちは・・・

課題

・外国人職員はうまく申し送りが伝わらないため困る。

・日本人と外国人のできた、やった感の違い。

・家族連絡や他職種とのやり取りが増え仕事が増える。

良い点

・コミュニケーションが難しくても取ろうとする姿勢がよい。

・どんな時でも笑顔で、元気があり、施設が明るくなり私たちも元気がもらえる

・文化の違いの話ができて楽しい。

働いている外国人職員の気持ち

・家族と会えなくて寂しいけど、2週間に1回や毎日の電話をしている。

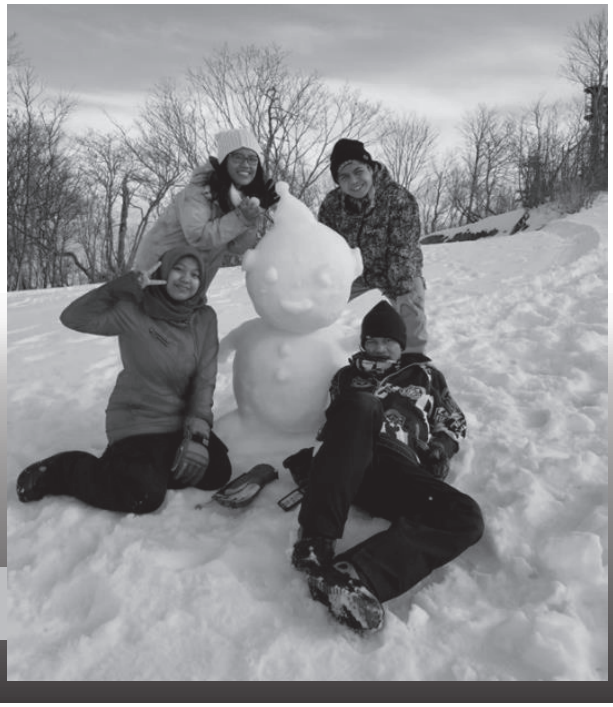
・日本で働くと旅行もできるから頑張れる。

・入居者様とのコミュニケーションが楽しくて頑張れる。

・将来、母国に帰っても働けるように日々勉強する。

・母国の家族の為に、仕送りする為。

・毎日、新しい事を勉強、学べるから楽しいし頑張れる。



FRANCE

まとめ

今回発表させていただいたように、外国籍の職員が増えてきてさまざまな課題が出ています。しかし課題だけでなく「外国人職員が増えて良いこと」も正直たくさんあります。日本人職員だけでは出てこなかった考え方や、捉え方、仕事のあり方などは、私たち日本人が学ぶべき事もたくさんあることに気づかさせられました。「人と関わる、信頼関係を築く、助け合う」といった対人関係を作っていくことがチームケアでは大切です。外国の職員を見ているとそういった思いの強さを感じます。「外国の人だから」というレッテルを貼って見てしまうのではなく、私たち日本人の考え方を今以上に柔軟にしてくことが、多様性の時代を乗り越えていくためには必要なことではないかと実感しました。

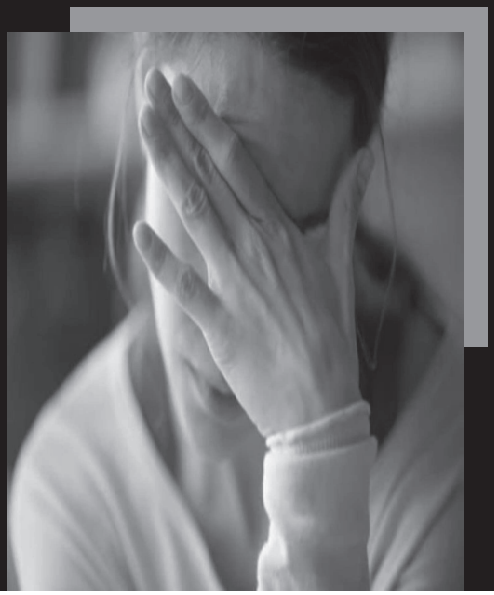
背景1
排泄ケアの課題

- 施設で従事する人たちの業務時間の約20%が排泄ケアに費やされ（瀬尾, 2001）、頻度は高い（武田ら, 2010）
- 高齢者の能力や身体的特徴に応じておむつ装着方法と感染対策を踏まえた難易度も高い（大塚, 2018）
- 排泄ケアの基本を十分に習得できておらず、介護スタッフたちは自信がない（平川ら, 2014）

Read More...

背景2
介護教育の課題

- 介護技術トレーニングは「自分自身で考えながら」が最も多く、次に「テキストやインターネットから」であり、指導してくれる人がいない現状（佐藤, 2015）

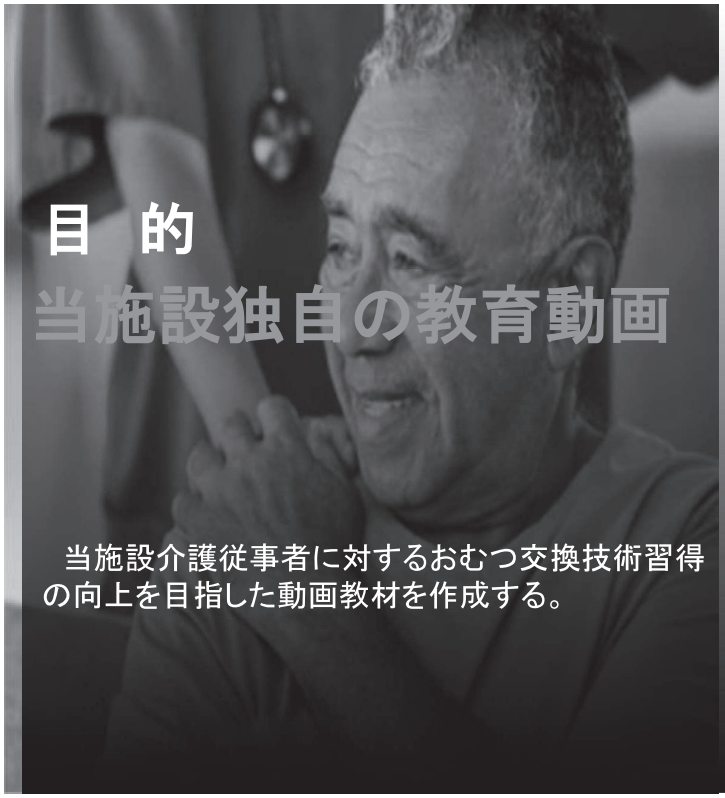


当施設でも・・・

新入職員の介護経験がバラバラ
「今までやってきたことと違う」
シフト制で勉強会にスタッフが集まれない

↓

入所者の皮膚トラブルの続出



目　的
当施設独自の教育動画

当施設介護従事者に対するおむつ交換技術習得の向上を目指した動画教材を作成する。

特別養護老人ホーム
庄栄エルダーセンター

メリット 01

困ったときにいつでもどこでも何度でもスマホで確認できる。

メリット 02

教育側スタッフの業務的負担軽減

TEAM WORK
看護師と介護士と組織の協働

特別養護老人ホーム
庄栄エルダーセンター

方 法

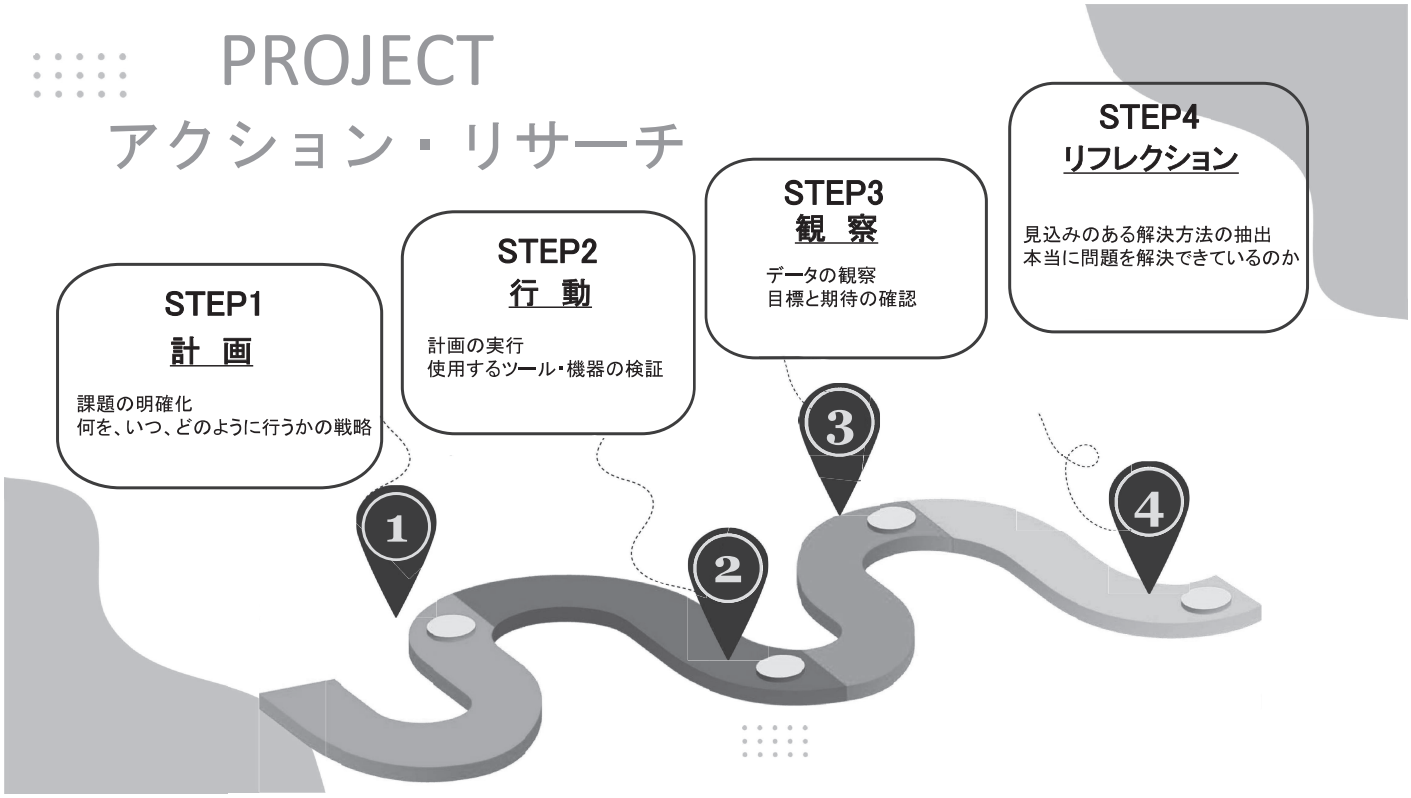
アクション・リサーチ法

組織が抱える困難や問題に対して、現実的な
解決策を見出そうとするために用いられる手法。

まず問題を特定し、それに対してアクションを起こし、
その効果がどの程度あったかを測定し、
満足のいく結果が得られない場合は、
再度そのステップを適用し、
繰り返しながら改善を試みる。

Learn More

PROJECT
アクション・リサーチ



作成手順 庄栄エルダーセンター教育動画

1

排泄ケアプロセス抽出

看護師

2

現場の手法の確認

介護ケアマネージャー
現場リーダー

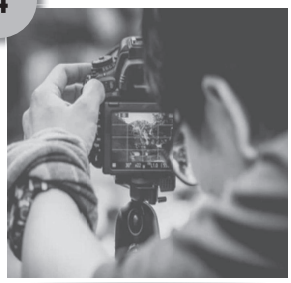
3

注意事項の追加

看護師

作成手順 庄栄エルダーセンター教育動画

4



動画作成

看護師&現場スタッフ

5

専用 You tube 開設

事務・広報担当者

6

動画公開・意見集約

現場スタッフ

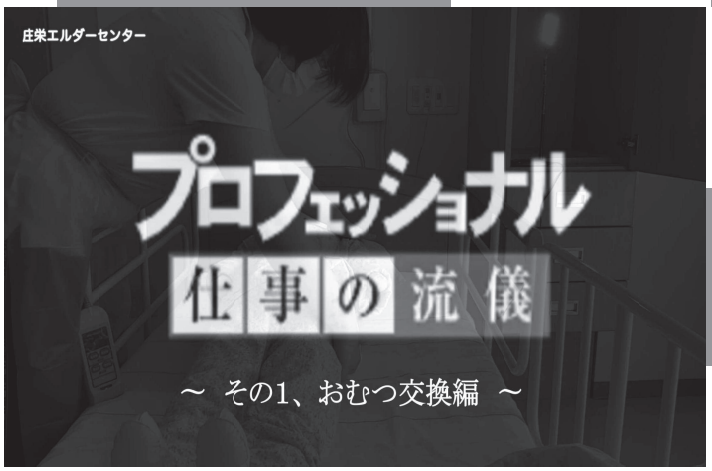
特別養護老人ホーム
庄栄エルダーセンター

結　果

施設専用チャンネル開設

- 当施設スタッフのみの限定公開
- いつでも好きなときに確認できる
- QRコードでのアクセスのしやすさ
- コメント欄で対面ではない文字ベースでの質問や意見交換ができる

教育動画だけでなく、会議動画もアップロードすることで会議欠席者も視聴可能、コメント欄で視聴確認も可能に。
※必要な人にだけURLを連絡



結　果

“プロフェッショナル”

- シリーズ化することで他技術でも継続可能
- 「視てみたい」という興味を惹きつける
- プロフェッショナルとしての自信

結　果

現場の生の声

- 動画出演は、排泄ケアに定評のあるスタッフ
- 撮影中も、スタッフの意見をもとに手技の修正
- 新入職員だけでなく、現任スタッフも、手技の振り返りができる。

考　察

独自の教育動画を作成して

- 自分の手技を見られる、責められるという脅威なく心理的安全を確保した状況で学習できる。
- 新入職員に当施設でのやり方をイメージしてもらうことができる。
- ケアに定評のあるスタッフを指名することで現役スタッフの自信につながる。

- YouTube コメント欄での意見交換を活発にする
- 同様の方法で頻度が高い、難易度が高いなど、スタッフのニーズに合わせた介護技術の動画作成
- 施設専用チャンネル運用に関するスタッフの意見集約

今後の方針

THANK YOU.

TEAM INFO

Phone :
０７２-６３１-５１５１

Adress :
大阪府茨木市庄２丁目７-３８

Presented by:
有馬美由紀（看護師長）
山口真有美（看護師/研究員）

特養・短期入所 合同
気付きシートを開設
～みんなの気付く力を向上させたい！～

発表者
社会福祉法人　成光苑
短期入所生活介護　せっつ桜苑
ケアワーカー　相浦　聖直

○気付きシート

こんな事！？全職員が出来たら！！素晴らしいと思いませんか？

目的（背景）

事故に繋がる様な芽を予め摘む事で、必ず〇〇しなければならないと言った自分達を縛る様な、事故予防対策が基本不要になる事を目指す。様々なヒントを得る力が育ち、ケア向上や、業務改善等にも、目を向ける事が出来る様になる。

気付きシートとは

- 何も起きていない段階でも　「このままだと危険」と気付く力。
- 未来を予測し予防する事で事故の発生を未然に防ぐ力。

⇩

つまり

- 『未来予測』が出来る力を育てる。

気付きシート

記入日　　年　月　日

タイトル	※インパクトのあるかっこいいタイトルをどうぞ	気付いた人	

1、なにがありましたか？（実際にあった出来事や現象）※例：ベッドのフレームカバーが外れていた

2、それについてどう思いましたか？（感想や意見）※例：ひっかけたらケガするなと思った

3、その先にどんな未来がありますか？（未来予測）※例：移乗時に利用者のふくらはぎの裏を傷つける可能性

No.

「気付きシート集①」

【ご利用者の気持ちに、意識を向けれる様に】

1.談笑時、「家は近いのですか？」と聞くと「そんなに遠ない」と答えた。「父親が屋形船の仕事をしてて、自分はただで乗っていた」と楽しそうに話した。生れが嵐山で、頭の中でどうやら現在「嵐山」で住んでいる事になっている様子。今後、「嵐山」の事を話すと喜んでもらえるかもしれない。

「気付きシート集②」

【ご利用者の動線】
2. 歩行器使用のご利用者が、居室のトイレで背伸びをして戸棚にある、備品類を取ろうとしていた。

→転倒リスクが高く、怪我をする恐れがある。

【気付きシート確認期間①】
・令和5年3月　～　令和5年6月末まで

【対象職員人数】
・ケアワーカー20名

【気付きシート提出枚数】

〇3月・・74　枚
〇4月・・38　枚
〇5月・・158 枚
〇6月・・74　枚

<u>合計・・344枚</u>

職員アンケート調査①

Q1
気付きシートの開始前と開始後を比較して、自身の考え方や視野が広くなる等の、変化はありましたか？いづれかに〇をつけて下さい。
あった　・　なかった　・　その他意見
【その他意見】

Q2
気付きシートの開始前と開始後を比較して、業務等に対して、自身の姿勢や対応の仕方に変化はありましたか？いづれかに〇をつけて下さい。
あった　・　なかった　・　その他意見
【その他意見】

Q3
気付きシートの開始前と開始後を比較して、ご利用者の気持ちに沿い、思いを汲み取る等、意識を更に向けられる様になりましたか？いづれかに〇をつけて下さい。あった　・　なかった　・　その他意見
【その他意見】

Q4
気付きシートの開始前と開始後を比較して、他のスタッフのケア方法に、意識を向けれるようになりましたか？いづれかに〇つけて下さい。
あった　・　なかった　・　その他意見
【その他意見】

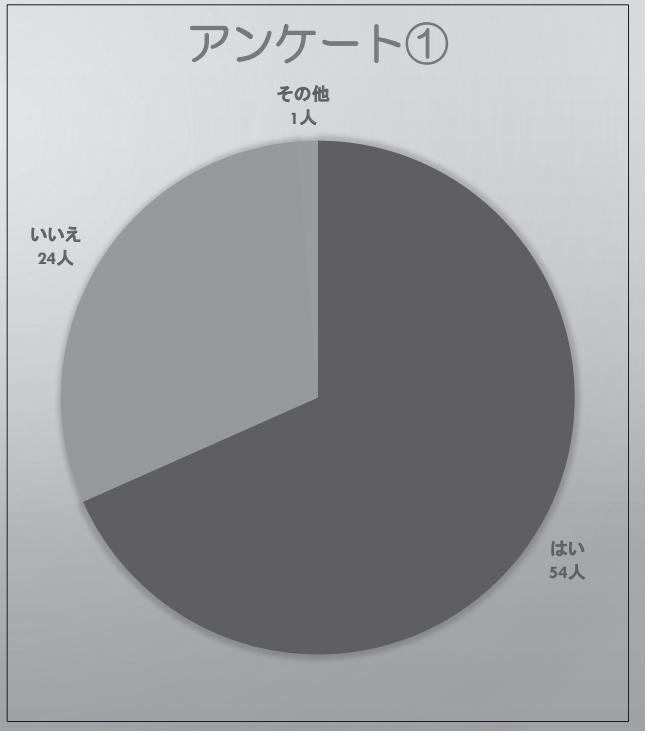
その他、何かありましたらご自由にご記入ください。
ご協力本当にありがとうございました。

対象者・・ケアワーカー　20人
・はい・・・　54人
・いいえ・・　24人
・その他・・　1人

・意見①・・注意深く傾聴する事、意識を向ける様になった。少しの変化や仕草に気付く事が出来た。

・意見②・・気付きシートを通して自己の振り返りが出来たと思う。

・意見③・・特に変化なし。



【まとめ】

- 一部の職員の業務に対する意識は良い方向に変わっている様子。
- 気付きが、業務中に普通に行う事が出来れば事故等は、減少するであろう。
- 『未来予測』する力が大切であるが、まだまだ到達しいない。

【気付きシート確認期間②】

・令和5年7月 ～ 令和5年11月末まで

【対象職員人数】
・ケアワーカー　18人

【気付きシート提出枚数】

○7月・・　66枚
○8月・・　35枚
○9月・・　21枚
○10月・・23枚
○11月・・39枚
合計・・　184枚

職員アンケート調査②

Q1気付きシートの開始前と開始後を比較して【未来予測】を意識しながら、先を読む力の向上が出来ましたか？どちらかに○をして、それぞれの感想を具体的に書いて下さい。あった　・　なかった　・　その他意見
【内容】

Q2気付きシートの開始前と開始後を比較して、洞察力の向上はありましたか？どちらかに○をして、それぞれの感想を具体的に書いて下さい。
あった　・　なかった　・　その他意見
【内容】

Q3気付きシートの開始前と開始後を比較して、業務改善への意欲の向上に繋がりましたか？どちらかに○をして、それぞれの感想を具体的に書いて下さい。
あった　・　なかった　・　その他意見
【内容】

Q4気付きシートの開始前と開始後を比較して、ご利用者を観察する力の向上に繋がりましたか？それぞれの感想を具体的に書いて下さい。
あった　・　なかった　・　その他意見
【内容】

Q5気付きシートの開始前と開始後を比較して、他のスタッフのケア方法で、ケアの質に対する関心が向上しましたか？どちらかに○をして、それぞれの感想を具体的に書いて下さい。
あった　・　なかった　・　その他意見
【内容】

Q6気付きシートの開始前と開始後を比較、自分のケア方法の自己内省力や、見直し、修正しようと思う様になりましたか？どちらかに○をして、それぞれの感想を具体的に書いて下さい。
あった　・　なかった　・　その他意見
【内容】

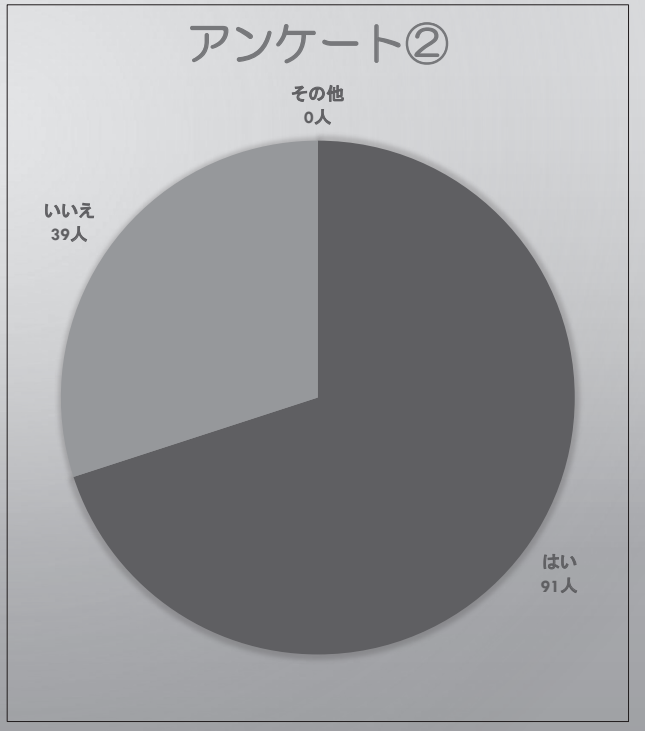
Q7ご利用者の好きな事を更に知り、気づきシートの活用が出来ましたか？どちらかに○をして、それぞれの感想を具体的に書いて下さい。
あった　・　なかった　・　その他意見
【内容】

対象者・・ケアワーカー　18人
・はい・・・　91人
・いいえ・・　39人
・その他・・　0人

・意見①・・知らなかったご利用者の一面を他ケアワーカーからり、自分の知識の一部として取り入れ活用する事が出来た。

・意見②・・向上の実感はない。

・意見③・・まだまだ出来てないので、今後実践して行きたい。



考察

気付きシートの在り方、リサーチ方法の改良が必要。ただ、気付きシートを通して、様々な情報が職員間で多く共有出来た事は、ケアの質向上等の、大きな一歩と捉えています。

結論

- ご利用者の軽微な怪我、事故が減少する事に目を向け、ケアワーカーの意識向上やコミュニケーションの充実化、気付きを高める土台作りが当面の課題である。
- 多くの気付きが、業務の流れで普通に行う事が出来れば事故等は減少するであろうが、まだ不足な現状。

今後の展望

〇気付きシートを活かし良い業務運営や、更なるご利用者サポートの実績を作る。

⇓

①情報のデーター化 ⇒ 居室担当へケアの改善を提案、実施。

②会議の議題に盛り込み、実際の業務に反映。

③気づきシートを、1日1枚提出が出来る様に導く。

参考文献

〇TRAPE’s Way STEP1：現場の気づきに向き合う（気づきシートの作成）

〇気づきシート（事前課題）【現場の課題を抽出するときに使います】（fukushizaidan.jp）

ご清聴ありがとうございました

令和5年度　高齢者福祉実践･研究大会

LIFEデータを利活用したケアの展開

～認知症ケア×役割＝自立支援のアップデート～

社会福祉法人大阪府社会福祉事業団
特別養護老人ホーム高槻荘
介護職員　磯﨑　司

施設概要　outline

社会福祉法人大阪府社会福祉事業団（OSJ)を母体とした高齢者総合福祉施設

- **特別養護老人ホーム（ユニット型：定員：100名）**
- 短期入所生活介護（ユニット型：定員10名）
- 居宅介護支援事業所：2か所
- 訪問介護事業所：2か所
- 訪問看護事業所：1か所
- 通所介護事業所：1か所（定員：40名）
- 認知症対応型通所介護事業所：1か所（定員：12名）
- 認知症対応型共同生活介護事業所（定員：18名）
- 小規模多機能型居宅介護事業所：1か所
- 地域包括支援センター（委託）：1か所

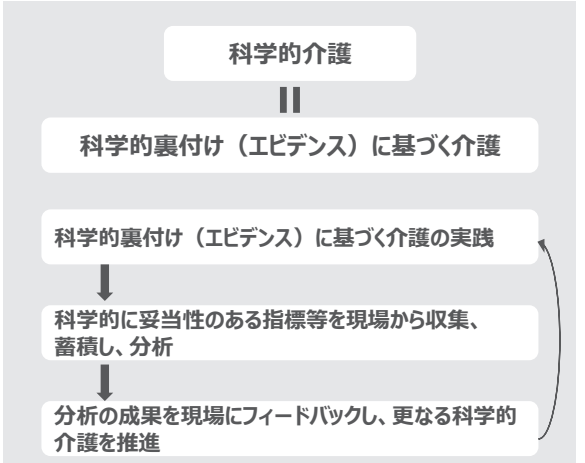
LIFEとは？　about “LIFE”

LIFE（**L**ong-term care **I**nformation system **F**or **E**vidence）＝

科学的介護情報システム

2021年の介護報酬改定により運用が開始

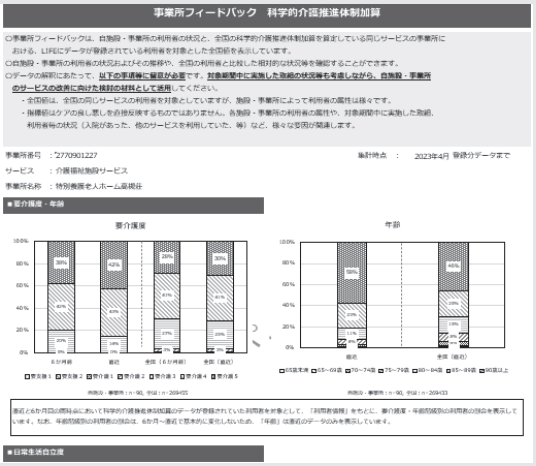
- 介護サービス利用者の状態や、介護施設・事業所で行っているケアの計画・内容などを一定の様式で入力すると、インターネットを通じて厚生労働省へ送信され、入力内容が分析されて、当該施設等にフィードバックされる情報システム
- 介護事業所においてPDCAサイクルを回すために活用するためのツール



科学的介護情報システム（ＬＩＦＥ）による科学的介護の推進について（令和3年4月　厚生労働省）

LIFEデータから視る施設の現状　Assessment

LIFEデータ事業所フィードバックから施設の現状をアセスメントする ✓

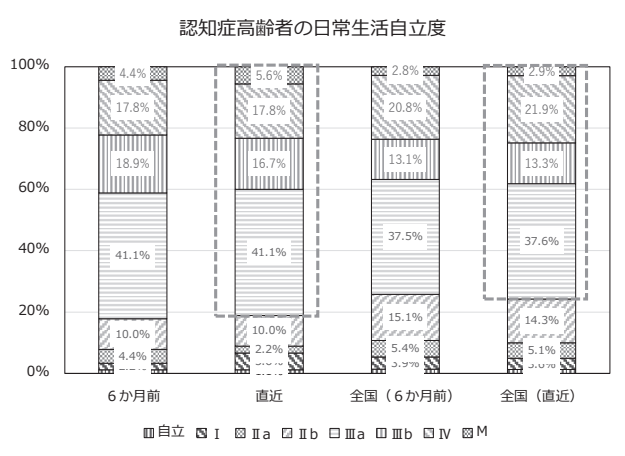


LIFEデータ事業所フィードバックの内容は多岐に

要介護度／年齢／障がい高齢者の日常生活自立度／認知症高齢者の日常生活自立度／ADL（食事・移乗・入浴・整容・排泄・更衣etc）／口腔・栄養（BMI・体重減少率・血清アルブミン値・食事摂取量・経管栄養のご利用者割合・経口摂取・低栄養褥瘡・誤嚥性肺炎etc）／DBD13（認知症行動障がい尺度）／vitality　index（意欲に関する評価）／内服薬薬剤・・・

LIFEデータから視る施設の現状　Assessment

LIFEデータ事業所フィードバックから施設の課題を焦点化する ✓



特徴①認知症高齢者の日常生活自立度

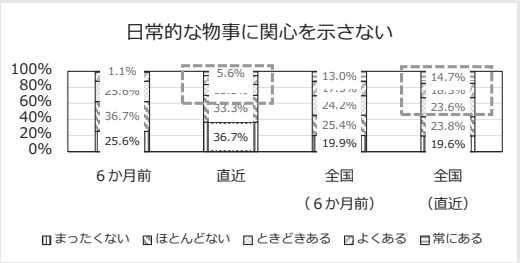
- **『認知症高齢者の日常生活自立度』について、Ⅲa以上のご入居者の割合が全国値より＋5.5%多い（全国：75.7%⇒自事業所：81.2%）**
- **認知症高齢者の内、中重度者の占める割合が多い特徴**

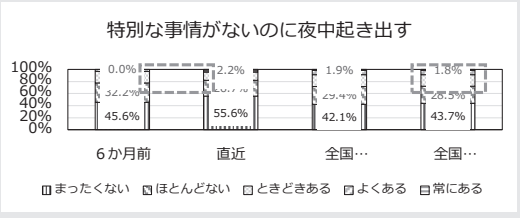
LIFEデータから視る施設の現状　Assessment

LIFEデータ事業所フィードバックから施設の課題を焦点化する ✓

特徴②DBD13（認知症行動障がい尺度）

- **DBD13（認知症行動障害尺度）の各項目について、自事業所は全国平均値に比べBPSDの発現が低い傾向にある。**



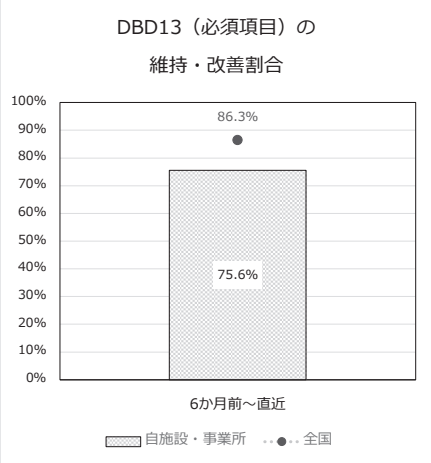


LIFEデータから視る施設の現状　Assessment

LIFEデータ事業所フィードバックから施設の課題を焦点化する ✓

特徴②DBD13（認知症行動障がい尺度）

- **一方、直近評価期間6カ月からのDBD13（認知症行動障害尺度）の維持･改善割合については、全国平均値より10.7%低い。**
- **悪化･進行傾向にあると捉えることもできる。**



LIFEデータから視る施設の現状　Assessment

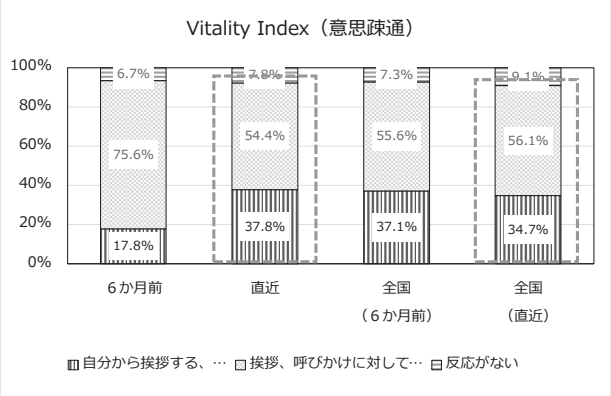
LIFEデータ事業所フィードバックから施設の課題を焦点化する ✓

特徴③ VitalityIndex（意欲に関する評価）

- **VitalityIndex（意欲に関する評価）については、全国平均値に比べ、1.4%高い。**

（全国：90.8%、自事業所：92.2%）

- **全国に比べると意欲の高いご入居者が多い傾向にある**



LIFEデータから視る施設の現状　Assessment

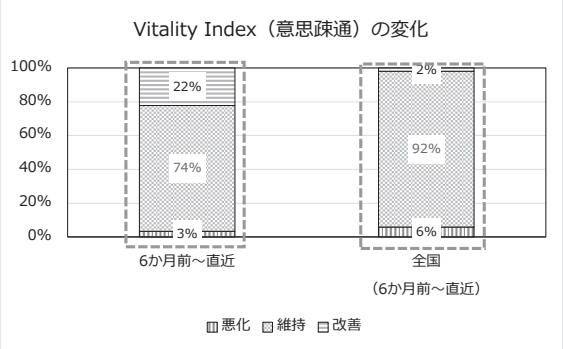
LIFEデータ事業所フィードバックから施設の課題を焦点化する

特徴③ VitalityIndex（意欲に関する評価）

- **VitalityIndex（意欲に関する評価）の変化については、維持･改善できているご入居者の割合が全国平均値に比べ、2%高い。**

（全国：94.0%、自事業所：96.0%）

- **全国平均に比べると特に6か月間で“改善”できているご入居者が多い傾向にある。**



LIFEデータによる課題･取り組みの焦点化　focus

LIFEデータ事業所フィードバックから見えてきた課題と強み

事業所フィードバックから見えてくるケアに展開させるための着眼点

- **認知症高齢者自立度Ⅲa以上の中重度の割合が高い傾向にあるので、認知症ケアを焦点に取り組んでみてはどうか？**
- **認知症行動障害尺度（DBD13）について、BPSDの発現が低い傾向があるのは、認知症ケアの工夫によるもの？ユニット型特有の物的な生活環境によるもの？**
- **BPSDの発現が低い傾向である一方、6カ月間の比較で、維持･改善できているご入居者の割合が全国平均値より低い傾向があるので、取り組むべき？**
- **一方で、VitalityIndex（意欲に関する評価）の変化は改善できているご入居者の割合が全国平均より高い傾向にあるので、ご入居者との関わり度合いは強みとして活かすことができるのではないか？**

ケアの実践　Practice

ケアに展開させるためのテーマ設定 ✓

“ご入居者が活躍できるケアの実践”

『認知症ケア×役割＝自立支援のアップデート』をテーマに、役割感のある居場所・場面作り、
役割を実感してもらうことができるケアの提供

- **“役割のある生活”を実現できれば、認知症行動障害尺度（DBD13）に良い影響を与えるのではないか？**
- **同じくVitalityIndex（意欲に関する評価）を更に伸ばせるのではないか？**
- **派生効果で多職種協働で取り組めば、各ADLに影響させることができるのではないか？**

特別養護老人ホーム・グループホーム・小規模多機能センターで事業計画化
合計８チームが共通テーマで取り組む

ケアの実践　Practice

ケアの実践例 『創る楽しさ！食器作りから広がるQOL』

陶芸教室に行くことがゴールじゃない！
ご入居者も職員もなが～く続く楽しみ！

- **陶芸教室に行く前に紙粘土でトライ！**
- **事前に作った紙粘土をみながら陶芸教室**
- **出来上がりを待つ楽しみは続く・・・職員との会話も充実**
- **自分で作った食器で献立を考えよう！**
- **自分で作った食器で食べる食事は格別！**
- **自慢の食器について語る話は尽きません・・・食器を中心に広がる人の輪**

ケアの実践　Practice

合言葉は『想像力UP！＆新たなチャレンジ大作戦！』

ご本人が想像しながら身近なものを作る経験や
新たな事にチャレンジしたい気持ちにつなげていく

- 3名のご入居者に協力してもらう
- 8月から実践開始！
- 本番に向けて紙粘土で練習！
- とにもかくにもポジティブな声掛け！上手くいかなくても大丈夫!
- 機能訓練指導員による可動域訓練も大切！
- できたものを人に見てもらうって嬉しい！

ケアの実践　Practice

食器作りを通して広がる“人の輪”

いざ、地域の陶芸教室にGO！

- 予定のある生活って充実！
- ご入居者同士も何度も顔を合わせると、なじみの関係に。
- とても親切な陶芸の先生と地域の皆さん。丁寧に教えていただきました。
- 練習で作った紙粘土を見ながら作るので安心！
- あっという間の1時間。集中力が続く、続く！
- ご入居者が楽しいと職員も楽しい。職員が楽しいとご入居者も楽しい！

ケアの実践　Practice

自慢の食器！広がる会話！ ✓

自慢の食器は続くよ、どこまでも･･･

- できあがりを“待つ”楽しみ
- 持って･触って･眺めて･飾って･使って楽しむ自慢の食器！
- 他のご入居者･ご家族･職員に自慢して楽しむ食器！
- ご入居者と職員が思い出を共有することの大切さ。

さて、LIFEデータ各指標はどのように変化した！？

ケアの実践評価　Result

LIFEデータの各指標を個別分析する ✓

96歳／要介護５　女性のAさんは･･･

- 認知症高齢者の日常生活自立度はⅢbで維持。
- ADLは維持。
- DBD13（認知症行動障がい尺度）は各指標維持。
- 低栄養リスクレベルが中レベルから低レベルに改善

LIFEデータ指標では顕著な変化はみられなかったが、

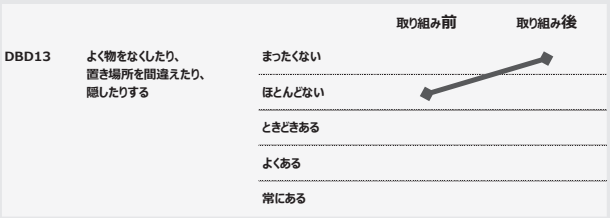
- 集中力の持続時間が長くなった
- ご入居者間の会話で笑顔が見られるようになった
- 職員の声掛けに対して、笑顔の数が増えた
- 職員の促しに対して応じる機会が増えた（生活意欲）

ケアの実践評価　Result

LIFEデータの各指標を個別分析する ✓

98歳／要介護４　女性のBさんは･･･

- 認知症高齢者の日常生活自立度はⅡbで維持。
- ADLは維持。
- DBD13（認知症行動障がい尺度）は
  『同じことを何度も何度も聞く』
  『よく物をなくしたり置き場所を間違えたり、隠したりする』の
  項目で改善

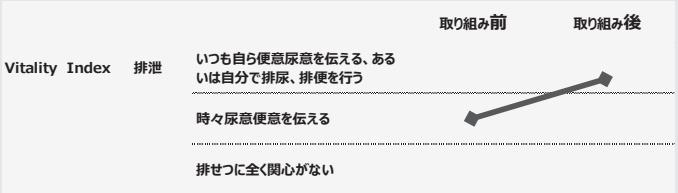


ケアの実践評価　Result

LIFEデータの各指標を個別分析する ✓

98歳／要介護４　女性のBさんは･･･

- Vitality Index（意欲に関する評価）では、排泄の項目で
  『時々尿意便意を伝える』から『いつも自ら便意尿意を伝える、
  あるいは自分で排尿、排便を行う』に改善



LIFEデータ指標では顕著な変化はみられなかったが、

- 集中力の持続時間が長くなった
- 職員の声掛けに対して、笑顔の数が増えた
- 職員の促しに対して応じる機会が増えた（生活意欲）
- ナースコールの頻度が減った

取り組みの振り返り　Go　Over

専門性＝エビデンスのあるケア　を考える ✓

LIFEデータの利活用は介護職の専門性を見える化する

- LIFEデータの事業所フィードバックは気づきと取り組みのきっかけ作りに有効
- 標準化されたLIFEデータ項目及びそれぞれの評価方法により、アセスメントの視点を共有できる
- LIFEデータを介護過程に取り入れることで、エビデンスのあるケア提供が可能に
- 特にケアの焦点化と効果測定に有効
- 自分たちが提供するケアが有効なのか？妥当なのか？正解なのか？不正解なのか？
- ケアを可視化することにより、より良いケアを横展開させることが可能になる
- 一方、要介護状態とりわけ重度者を対象にした場合、短期的な目に見えた"改善"は期待しにくい
- ご入居者やご利用者の個別ニーズや希望を把握し、取り組みにつなげる介護職の匠の技・気づき

求められるこれからのケア　Going　Forword

科学的根拠に基づく質の高いケア ✓

LIFEデータに始まるビックデータをケアの材料として活用できるかが鍵！

LIFEデータは介護・医療の共通言語になりつつあります。
ますます進むDX化。蓄積されたデータはAIに変わり、介護業界に生産性の向上が求められる中、介護の専門性を社会的に認知してもらうためにも、科学的介護の実践は不可欠です。
変わりゆく環境をポジティブに捉え、ご入居者やご利用者へのより良いケアの提供、又職員の仕事に対するやりがい・達成感に有効活用していきたいと思います。

『誰もが』使いやすい見やすい
マニュアル作成に向けての取り組み

社会福祉法人あゆみ会
特別養護老人ホームアンパス東大阪

施設概要

■沿革

平成10年11月：社会福祉法人あゆみ会設立

平成11年 9月：特別養護老人ホームアンパス東大阪（６０床）
を東大阪市若江南町に開設

平成12年11月：大和川地域在宅サービスステーションアンパス
住吉（４５名）を大阪市住吉区山之内に開設

平成18年 4月：地域包括支援センターアンパス東大阪
（若江地区）受託事業を開始

平成23年 4月：アンパス保育園（１１９名）堺市北区長曾根町
に開設

平成28年 4月：地域包括支援センター池島（池島地区）
受託事業を開始

取組のきっかけ

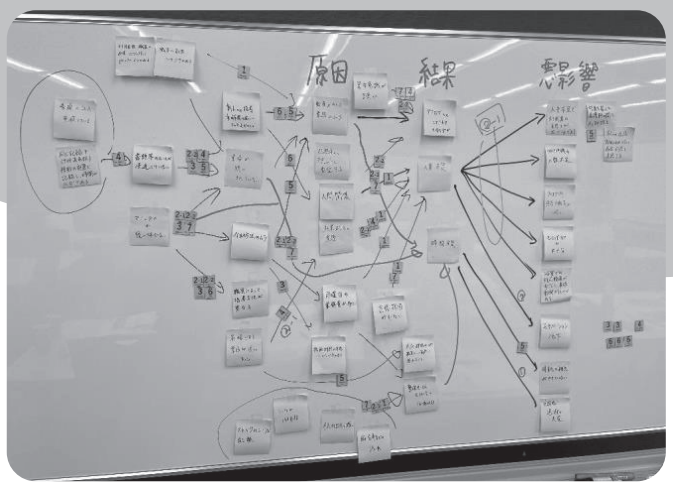
アンパス東大阪内の各事業所、各部署それぞれに、

業務量の多さ、離職率、ケアの質

という課題がある

生産性向上の取り組みが必要！

現場の課題の見える化



業務が統一されていない

ﾏﾆｭｱﾙが統一されていない

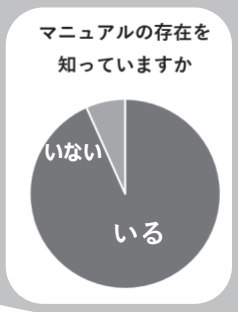
▼

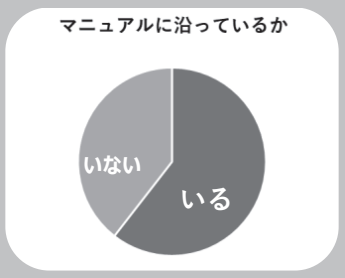
現在のマニュアルの
見直し・再構築を行う

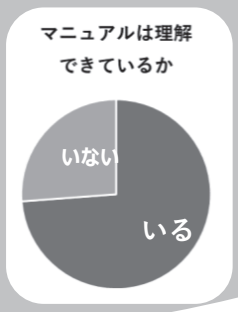
人によってやり方が異なる等、現場が混乱していると考えられる**業務の洗い出しと整理**を行う

使用する職員全員が理解できるように、**場面別、視覚的**に分かりやすい業務マニュアルの作成を目指す

アンケートの結果







何度も見返すことがなく、全部できているのか自信を持って言うことができない

全てのマニュアルを把握できているか自信がないので沿えていない

具体的なマニュアルが良いと思います

古いマニュアルが多いので一度全部見直した方がいいかと思います

忘れてしまっているマニュアルもあります

従来のマニュアルの課題点

マニュアルを作成した後の**更新**が滞っており、
古いマニュアルがそのままになっている

調べたい内容がどこのマニュアルに載っているのか
わからない為**探す時間**が必要

全てのマニュアルが把握できておらず、**どこにあるか**
ということと全て確認できているかがわからない

ICTを活用したマニュアル

【Google サイト】を活用した総合マニュアルを作成

完全**無料**
維持費いらず！

紙媒体でないため、**どの端末**から
でも同時に閲覧できる

サイト内で作成したマニュアルの**検索**ができる
ため、知りたい情報をすぐに確認できる

新しい業務、自分しか知らない業務が
あれば作業をしながら**自分で**
マニュアルを作成できる

情報が新しくなればその部分だ
け更新ができるので、**更新**
がしやすい

現在、地域包括支援センターにて運用中

業務内でよく確認される内容から順に
マニュアルを作成しているため、実際に
業務内で確認が必要になった時に、
マニュアルを探す時間と判断に迷う
時間が**短縮**された

また、更なる効率化のため、よく疑問に
あがるものは**QRコード**を
作成してすぐにアクセスできるようにした

マニュアルを作っても『誰も』見ない

▼

自分たちで作るマニュアル

マニュアルを自分たちで作ってもいい
自分たちの意見が反映される
自分たちの業務を整理できる

▼

『誰もが』使いやすい見やすいマニュアル

眠りSCANで睡眠を科学！
私らしく暮らす24Hシートへブラッシュアップ ✨

社会福祉法人　大阪府社会福祉事業団
特別養護老人ホーム　白島荘

研究目的

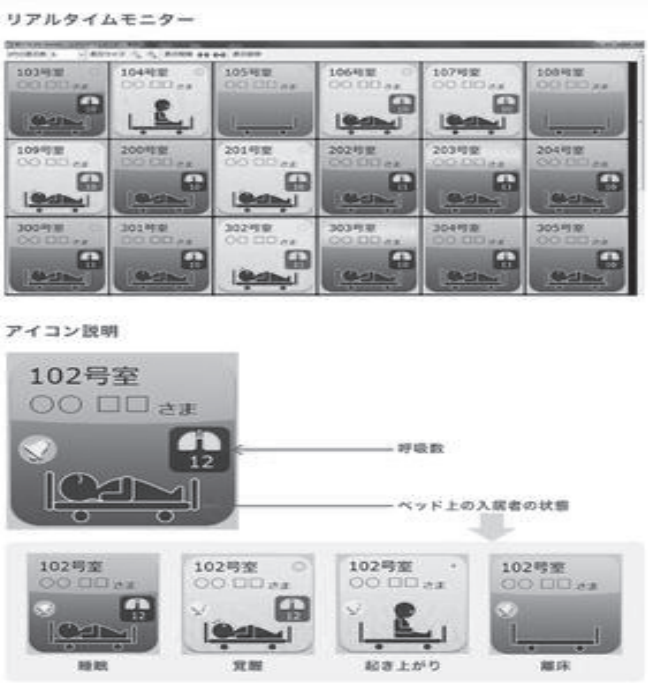
- 入居者の夜間睡眠状況など、眠りSCANを使用し
  モニタリングすることで**睡眠アセスメント**を行う。

- 睡眠状況改善のためのケアを24時間シートに反映し、
  ケアの統一を図る。

眠りSCANとは

○呼吸・心拍数・睡眠覚醒状況と離床とベッド上での起き上がりが、一目で確認できる。

○入居者のペースに添った支援がお手伝いできる。



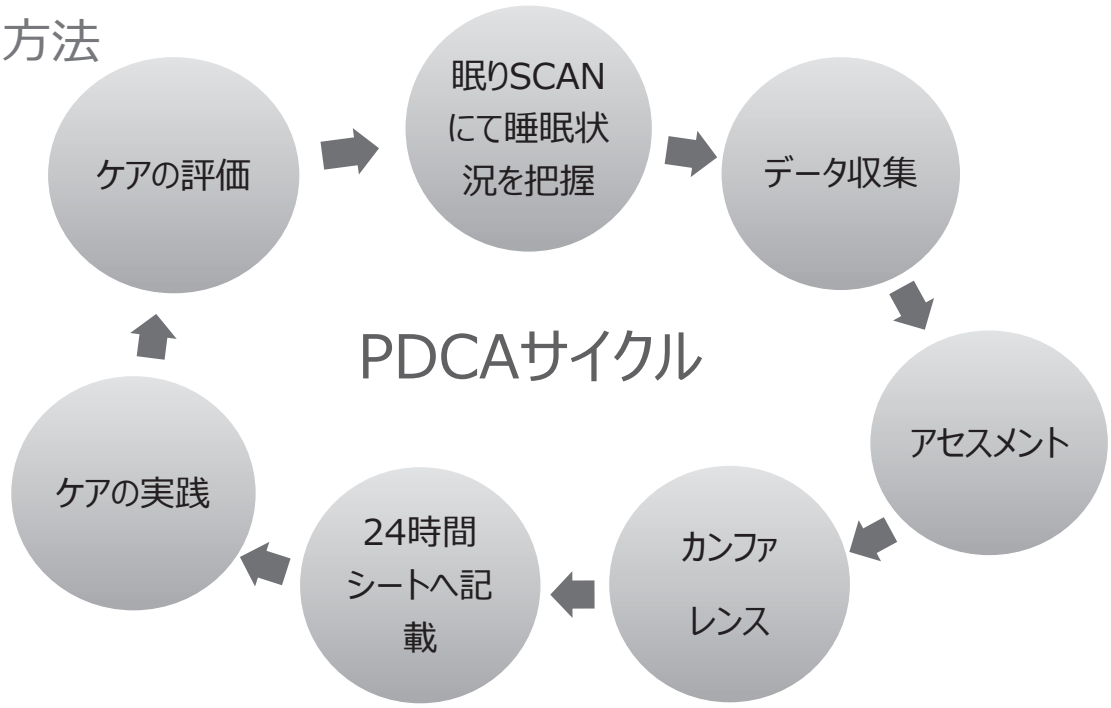
眠りSCAN導入までの経過

令和3年3月⇒眠りSCAN20台、2ユニットで先行導入

令和5年9月⇒眠りSCAN80台追加導入
白島荘　全100室　10ユニットに設置

▷使用方法の勉強会を実施
▷職員対象の理解度アンケートを実施し、全職員へ浸透
▷全入居者に対してアラート数値を設定

研究方法



事例紹介

●氏名：A氏　90歳代　　男性
●現病歴：アルツハイマー型認知症、高血圧症
●既往歴：慢性硬膜下血腫、誤嚥性肺炎

●介護度：要介護　5
●日常生活自立度：C２　Ⅳ

●移動：リクライニング車椅子　全介助
●食事：やわらか食　全介助
●排泄：オムツ　全介助

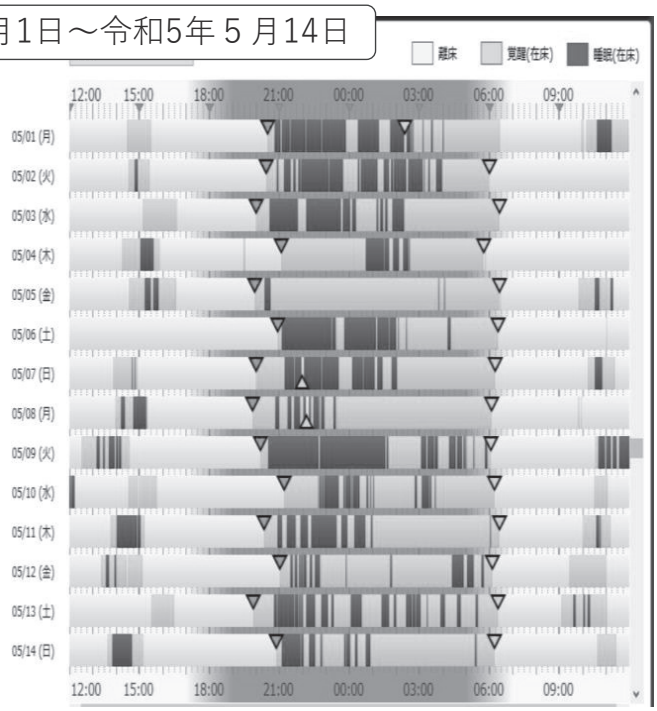
●趣味：落語を聞く　散歩
●**日常の様子：日中、ウトウトされていることが多い。**
食事中、覚醒状態が悪いことがあり、咽込みが見られることがある。

A氏の睡眠分析

令和5年５月1日～令和5年５月14日

眠りSCANデータより

- 日中、夜間とも熟睡できていない
- 夜間、中途覚醒が多い
- 日中、リクライニング車椅子でウトウトされていることが多い
- 家族様と面会中も居眠りされていることが多かった

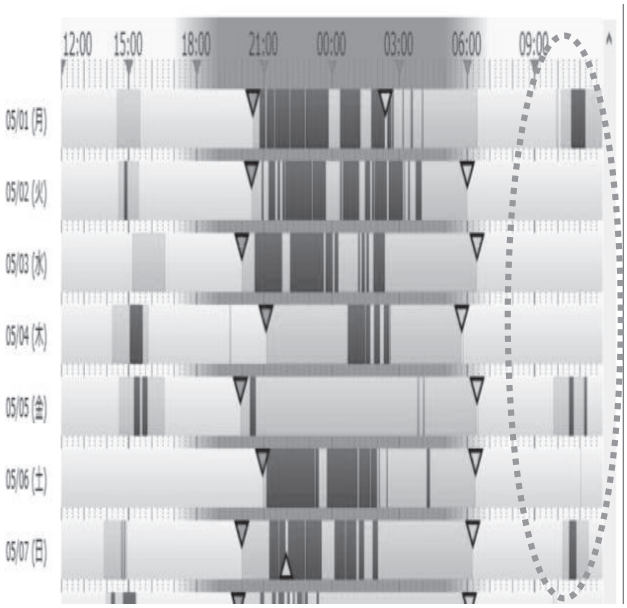


睡眠へのアプローチ①

24時間シート

時間	生活	自分で出来ること	ケアの必要なこと
10：00	リビングで過ごす	テレビを観ることができる	テレビ前までお連れする
	お部屋にて休む		体調に応じて、お部屋へ誘導しベッドで休んでいただく

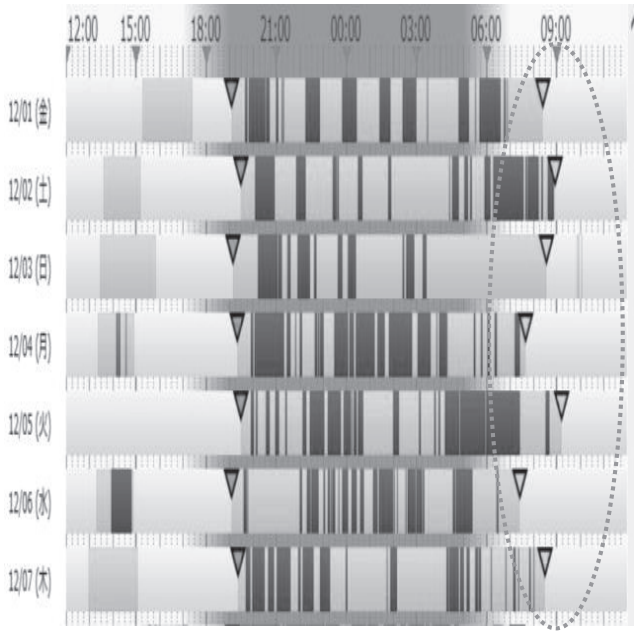
変更前①
午前中はリビングにてテレビを観ていただいたり、状態に応じ、臥床していただいていた。
職員によってケアにバラツキがあった。



睡眠へのアプローチ①　R5年12月1日～

24時間シート			
時間	生活	自分で出来ること	ケアの必要なこと
10：00	リビングで過ごす。	外を眺めたり、自然光を浴びて刺激を受けたい。	
	午前中は起きて過ごす。		体調がすぐれない時は、お部屋へ誘導しベッドで休んでいただく

変更後①
午前中はリビング窓際で日光浴をする
24時間シートを修正し、ケア内容を統一した



睡眠へのアプローチ②

24時間シート		
時間	生活	ケアの必要なこと
15：00	お部屋にて休む	体調に応じてお部屋へ案内してベッドで休んでいただく。

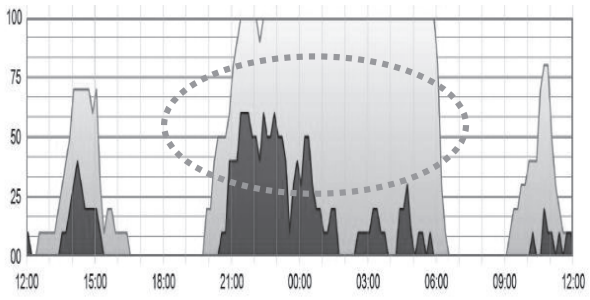
変更前②
１５時より１７時までベッドにて臥床

24時間シート			
時間	生活	自分で出来ること	ケアの必要なこと
13：30	お部屋にて休む	お部屋で横になって休む	夜間良眠を目的に午後1番にお部屋へ、案内してベッドで休んでいただく。15時には起きていただき、夜間の眠りの妨げにならないようにします。

変更後②
１３時半より１５時までベッドにて臥床

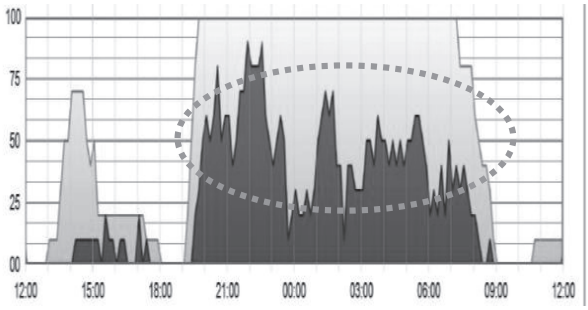
取り組み前後のA氏の眠りSCANデータ

取り組み前
令和5年５月８日～令和5年５月１４日



・21時～2時くらいまで眠られ
その後起きておられることが多かった
・平均睡眠時間は**2時間45分**
・睡眠効率は27%

取り組み後
令和5年12月８日～令和5年12月14日



・20時～5時までの睡眠時間が
増えた
・平均睡眠時間は**6時間24分**
・睡眠効率は49%

アプローチ効果
眠りSCANデータより

- 日中覚醒され、趣味の落語を聞く時間が増えた
- 食事中の覚醒状態が良くなり、**誤嚥のリスクが減った**
- 食事摂取量が増え、血液検査結果でアルブミン値が**3.7g/dlから4.0g/dlに増えた**
- 家族も面会時に目を開けていると喜ばれた

結果

導入前▷職員の主観で24時間シートを作成していた。

導入後▷**科学的根拠に基づく**24時間シートの
見直しができた。
▷日中の活動量が増えた。
▷覚醒を確認し訪室するため
眠りの質向上に繋がった。

結論：今後の期待される効果

●入居者の睡眠が改善する。
▷メリハリのある生活を送れることで入居者の生活の質が向上する。

●その人らしさ、入居者の生活習慣や意向に沿った支援ができる。
▷24時間シートの更なるブラッシュアップが図れる。

●介護介入や働き掛けの効果が見える。
▷スタッフのモチベーション、やりがいが向上する。

ご清聴ありがとうございました。

睡眠から生活リズムを見直そう！！

～介護睡眠見守りシステムを活用して～

社会福祉法人　悠人会
特別養護老人ホーム　ベルファミリア
小西　肖侑

社会医療法人 社会福祉法人 生長会・悠人会

施設の概要

ベルファミリア

4階 3階 2階	ユニット型：1ユニット10名 （1フロアー：4ユニット） 計：12ユニット	116名 （ショート ステイ16床含む）
1階	・通所介護　（60名） ・居宅介護支援事業所　　・訪問介護 ・地域包括支援センター	

～その人らしさを大切に、素敵な「我が家」
としてをコンセプトにサービスを提供～

社会医療法人 社会福祉法人 生長会・悠人会

はじめに

今後高齢者1人を現役世代何人で支えるのか

超高齢社会を支えるため
厚生労働省が
介護機器の活用を推奨

社会医療法人 社会福祉法人 生長会・悠人会

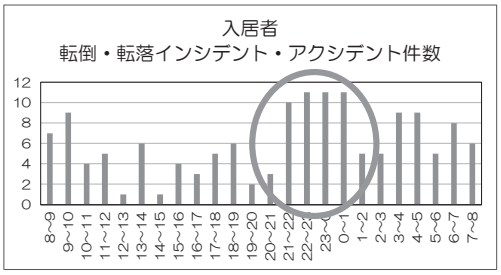
施設の現状

入居者の状況

	平均要介護度	認知症高齢者日常生活自立度Ⅲ以上	重度入居者・利用者
入居（100名）	4.13	82.9%	60.5%
ショートステイ（16名）	2.8	13.2%	60.3%

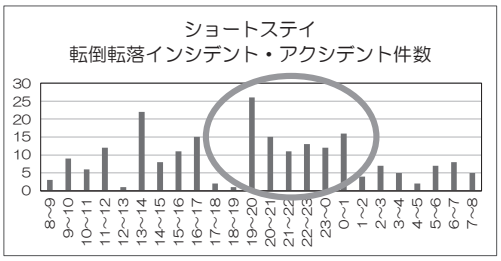
社会医療法人 社会福祉法人 生長会・悠人会

施設の現状



合計：146件

21時～1時の発生が多い



合計：221件

19時～1時の発生が多い

社会医療法人 社会福祉法人
生長会・悠人会

目的

夜間の睡眠状況を観察し、覚醒よる転倒・転落のリスクを軽減する

良質な睡眠が得られる
安全性・体調面の観察

睡眠から生活リズムを見直す

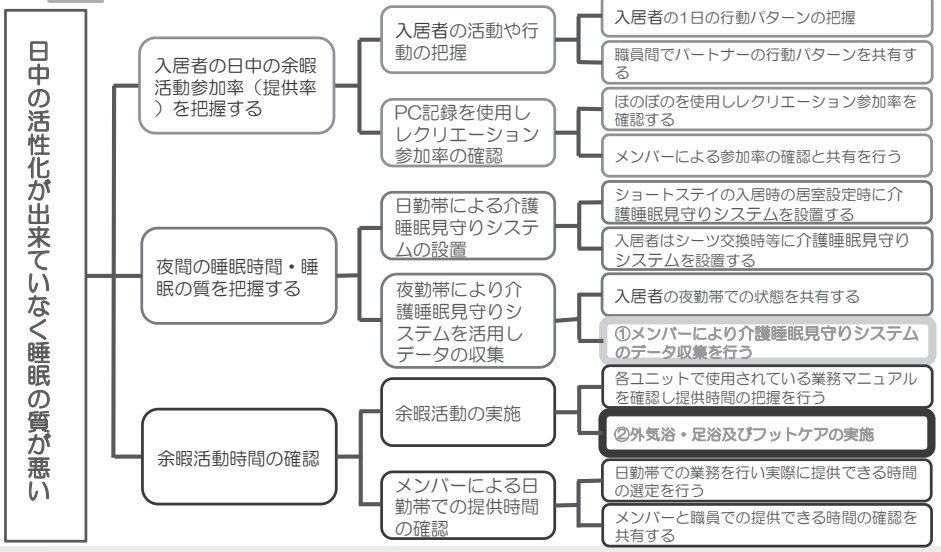
社会医療法人 社会福祉法人
生長会・悠人会

倫理的配慮

対象者・ご家族へ研究発表に際し、個人が特定されないこと、研究以外での使用はしないことを説明し、同意を得た

社会医療法人 社会福祉法人 生長会・悠人会

方法



社会医療法人 社会福祉法人 生長会・悠人会

実施内容①

◎介護睡眠見守りシステムを活用し、夜間の睡眠状態を確認
◎確認項目：夜間の中途覚醒回数
◎対象：5名→中途覚醒が多い2名に決定

利用ユニット	氏名	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	合計	平均
ショートステイ利用者	A様	2回	9回	5回				16回	5.3 回
	B様	6回	5回	2回				13回	4.3 回
入居者	C様	0回	2回	0回	10回	1回	0回	13回	2.2 回
	D様	4回	1回	0回	0回	0回	0回	5回	0.8 回
	E様	7回	5回	7回	9回	6回	6回	40回	6.7 回

社会医療法人 社会福祉法人 生長会・悠人会

実施内容②

外気浴・足浴時の様子

社会医療法人 社会福祉法人 生長会・悠人会

結果①

夜間最も多かった中途覚醒回数

A様実施前
夜間覚醒回数
9回

A様実施後
夜間覚醒回数
5回

44%減

E様実施前
夜間覚醒回数
9回

E様実施後
夜間覚醒回数
4回

56%減

社会医療法人 社会福祉法人
生長会・悠人会

結果②

実施前　　実施後

血行促進・浮腫の軽減

社会医療法人 社会福祉法人
生長会・悠人会

考察

・夜間の覚醒状態把握にはセンシングウェーブ（介護睡眠見守りシステム）の活用はコスト（労力・時間）面においても有効と評価する

・介護機器の活用は、介護展開において収集することが困難なエビデンスを確保することが容易となる

・日中の活動（足浴や外気浴の刺激）は、夜間の睡眠の質を向上させ、生活リズム改善には有効と評価する

・介護機器の活用方法や使用方法を理解するきっかけとなった。

社会医療法人 社会福祉法人
生長会・悠人会

まとめ

●介護機器を用いて、睡眠状況を把握し、日中の生活の中に睡眠を促すケアを取り入れたことは効果的であった

【今後の対応】

・夜間の覚醒状態から、排泄ケアや体位交換など適切な介護提供時間の設定を行い、夜間の睡眠の質の向上を図る事が期待できる

・今後早朝の覚醒時間から適切な起床時間を把握。
朝食時の傾眠状態の緩和を図り、安定した食事摂取量増加を図りたい

社会医療法人 社会福祉法人
生長会・悠人会

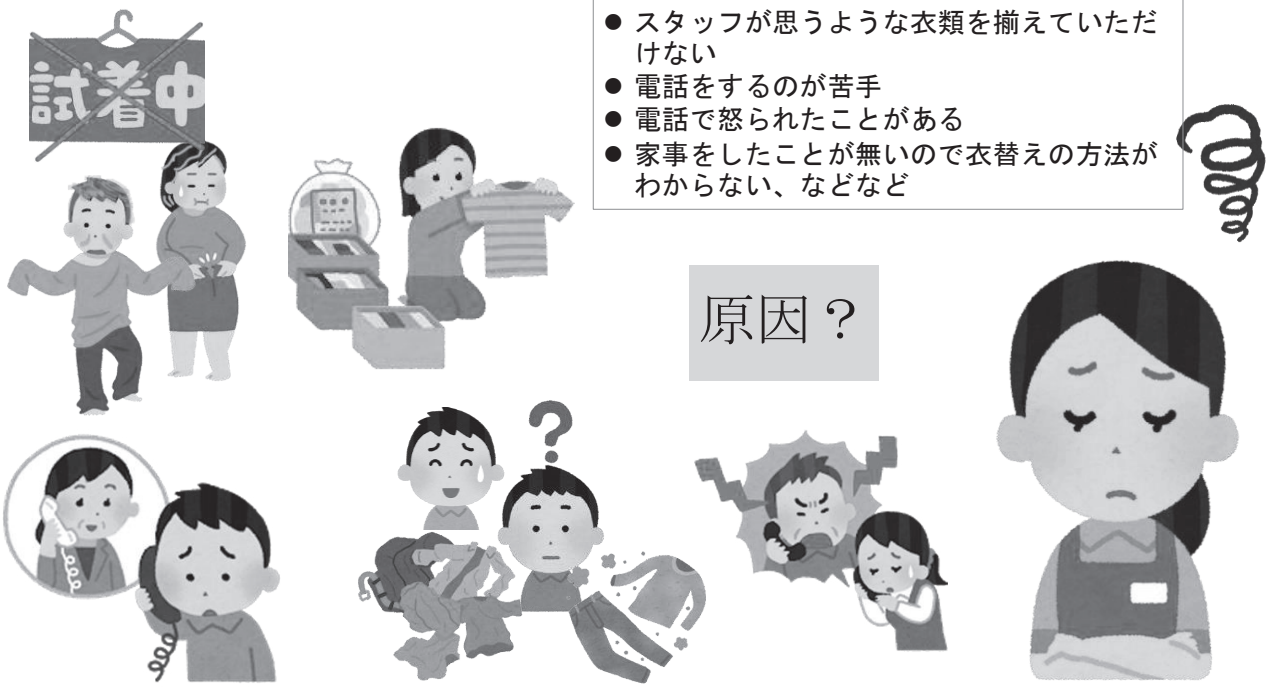
御清聴ありがとうございました

社会医療法人 社会福祉法人
生長会・悠人会

衣替えがタイムリーにできていない

実は衣替えは介護職にとって精神的負担の大きな業務ですよね・・・

2



- 衣替えの時間が取れない
- スタッフが思うような衣類を揃えていただけない
- 電話をするのが苦手
- 電話で怒られたことがある
- 家事をしたことが無いので衣替えの方法がわからない、などなど

原因？

衣替えの構造

衣替えはご家族でとお願いしているが、実際は、衣替えの時期になるとケース担当が、処分する衣類、ボタン付けなど補修が必要な衣類、足らない衣類などを仕分けてご家族に連絡し事務所で受け渡しを行う

ご家族の気持ち・・・

オシャレでいてほしい

女性の下着は買えない…

以前持って行ったときに、
これは違うと細かく言われた

忙しくて無理

私も歳で
買いに行
けない

スタッフの気持ち

すきま時間でするのではなく、期限を決めて一斉にしたい

ご利用者とご家族が一緒に選んで買えたらいいな

どうしても苦手なことはお互い無理しなくてもいいのでは

衣類管理はご家族がすることになっているけど、介護のしやすい衣類にしてほしいから、一緒に決めたい

「構造」を変える

- ❖衣替えはご家族に一斉にお知らせする
- ❖ご家族への連絡は介護スタッフでなくていい
- ❖ご家族が用意できないときの対応を決めておく
- ❖ご利用者と一緒に買い物ができるように

一斉配信

出張販売会の活用

ケアクラーク導入

高齢者施設・障がい者支援施設向け

出張販売会オカハシ

いつもの施設にいながら
ゆっくり・安心・安全にお買いもの！

人との交流で心身のリフレッシュ！
脳を活性化！

スタッフ様のお手間軽減！
準備から片付けまで弊社にお任せください！

施設内告知用の案内チラシ・
ポスターをお渡しします！

Pitch deck title

「過程」

衣替えはケアクラークから、ご家族への一斉メールや個別のご連絡で案内。同時に衣類販売会をご案内。スタッフにも衣替えの予定を伝えます。

家族が面会時に衣替えをしていただくことが基本ですが、衣類販売会でご利用者とご家族・スタッフが一緒にお買いものをしています。

傷んでいる衣類が多い方には、ケアクラークからお電話。サイズが変わってきた方はケース担当からご本人のご状態の説明を含めて連絡。

家族で準備が難しいかたはカタログ内から選ぶ。古い衣類や補修が必要な衣類は、事務所で預かってケアクラークからご家族に返却。

「過程」
衣替えを楽しい
イベントに

ケア
クラーク
大活躍

移動販売
カタログ
販売

そろそろ
外出も
イイね♪

ご家族に
お願いし
つつ
協働で

ご利用者
と一緒に
選ぶ

年間行事
に組み込
む

「結果」
衣替えが
スムーズに

- 衣替えをイベントにしたことで、衣替えがまだ済んでいない方の把握ができるようになりました
- 介護スタッフは嫌なことばかり連絡しなくてよくなりました。面会時にはご家族へ明るく声をかけられるようになりました。

年末にはご利用者と大掃除
衣類整理をしました

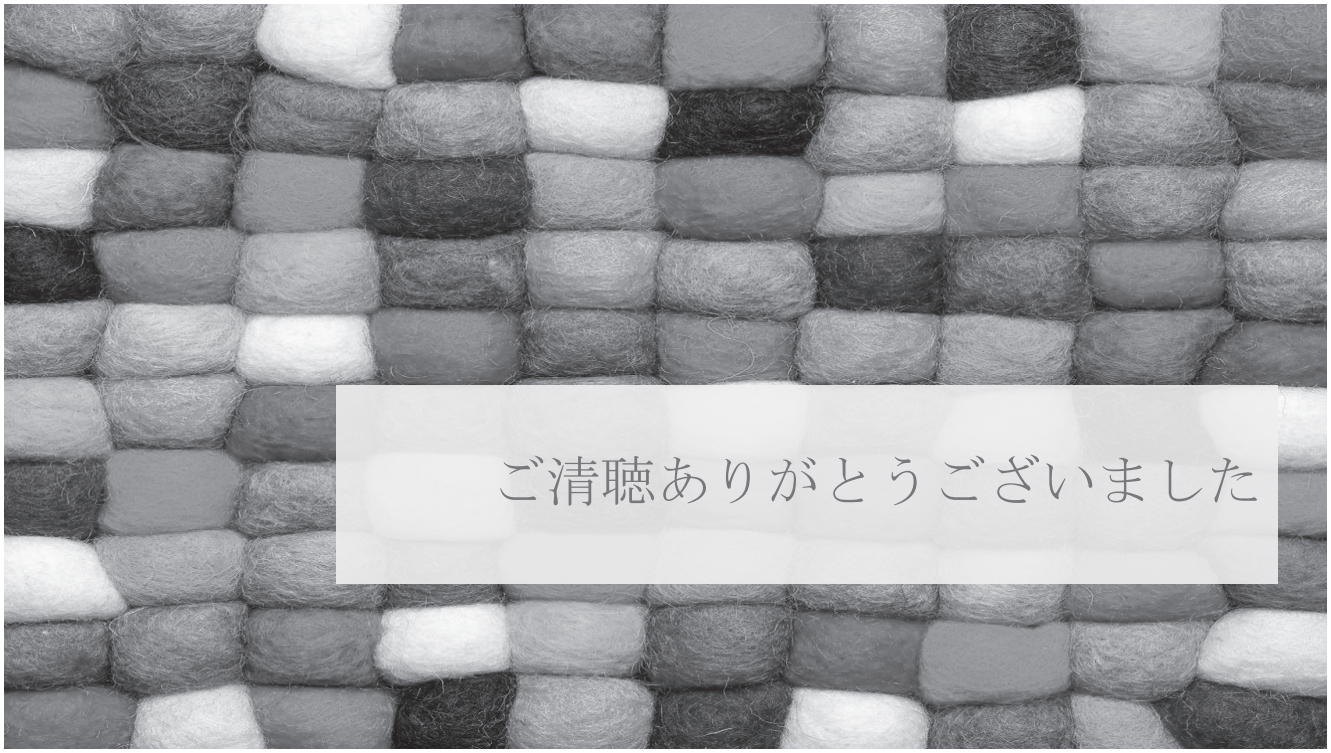
お仕事デイに補修を
お願いしています

介護現場の生産性向上

→介護の質を確保しつつ効率的なサービス提供を行うこと

ケアクラークさんの活躍により、各種イベントのご案内やブログの作成など介護職・相談員の負担が減った

ご家族との連絡にもっとICTを活用していきたい

↓

メルタスファミリー導入